

大正二年

(二月)

一月一日 壬午 水曜 晴天。風もなく長閑なる新年也。

起床五時。四方拝。祖先拝。六時、学校寄宿舎食堂集ル。椒酒雑煮を祝ふ。畢而書画帖に一同試筆す。本年ハ上より下、下部に至る迄一人の病人もなく無事。すへて祝賀状も出さず。泰、寿子ハ此時より銚子旅行す。年賀状ハなくて只旧誼を願ふと云。

(受信) 木津若間より人参着。

一月二日 癸未 木曜 晴天。風なく結構なる年始也。屋根の雪とけ、未だ雨の如し。

朝八時、朝餐常の如し。来客、朝十時頃より津田 挙家来りてはしめて、年酒をする。午下四時過、皆帰る、五島万千代、梶山。此日は新年らしく覚ゆ。

(受信) 木津願泉寺より六万堂漬着。

一月三日 甲申 金曜 元始祭。晴。三ヶ日の晴天、春の如し。

朝八時、朝餐済む。

(受信) 初便、姉小路正四位様え。

一月四日 乙酉 土曜 晴天。

朝十一時の汽車にて小田原行。予、桃子、土井早苗を連る。去年桃山行此かたの汽車にて珍らし。気色も殊更麗かにして心地よし。大船にて弁当をもとめ昼食す。二時頃、浦氏に着。挙家大悦にて、久々の御咄しに時を移す。此夜一泊をとて、実に喜悦限りなし。礪はたつたひにて早川わたり迄散歩して帰。夕食後、何くれと語り合て、蓄音器商来りて新曲物きく。六枚ほど買求る。湯にも入りて心地よく臥。

*気色(景色) *礪はたつたひ(磯端伝)

一月五日 丙戌 日曜 寒の入。晴、雨、曇、風。風もあり霰もみそれも雨もあり。62(度)。

朝、床の内より日の出を拝む。本日執海行、桃子にせかまれたれと、いかにせん此天気にて皆々此行止められてやむ。昼餐後、結別して国分津に行。電車迄四三子、田鶴子送り来る。此時あられふる。乗車して晴天となる。北八幡なる藤井玉枝氏を問ふ。大悦にて、此時瑞枝臥り居られ、病気になるかとあんしたれと、あまりの寒さにこたつにあたりたる迄也とて其悦ひ言はん方なし。何くれと大歓迎にて、然し今夜は一泊をと乞はれる。一泊ハ結構なれと夜冥(具)は如何と、あんしたれと六人前は用意あるとて大ほこりたり。先々安心してゆるく一泊す。また

浦つたひ散歩して酒匂橋辺迄行て帰。汐湯も出来て、食事も山海の珍味あり。夜、床に入て寐なから一時頃迄咄しつゝ夢に入る。

酒匂の電車にて日下部米子一行と村田中将夫婦と咄しなから国分津え着。

*みそれ(曇) *執海(熱海) *結別(誥別) *国分津(国府津) *あんし(案じ)
*こたつ(炬燵) *あんし(案じ) *ほこり(誇り) *浦つたひ(浦伝ひ)

一月六日 丁亥 月曜 62(度)。東京とハ廿度の差也。

朝の日の出、正面より海上に上る。金波紫金色にて実に皆画に入たり。旭日を写生す。朝餐後、例の屏風其外種々揮毫す。朝、汐湯に入て清々し。昼飯後、二時頃暇をつけて、電車にて停車場に着。橋本町子を問ふ。大々驚かれ、喜ひ限りなし。已にして汽車の時間来り、大急きにて漸間二合、三時也。汽車行中今津覚太郎氏と共に帰。横浜より最大急行、廿五分にて新橋着。電車にて無事帰。

*つけて(告て)

一月七日 戊子 火曜 晴。

約束予定 安藤基子より琵琶江のしら魚着。

実に東京のひえ甚し。来客、大坂中島数子祖母富女来られて、久々に、面会にて種々昔し語りす。午食後、予、桃子と三越買物二行。木屋洪器店にも買物して帰。中島富、一泊。

*琵琶江(琵琶湖) *ひえ甚し(冷甚し) *木屋洪器店(木屋什器店)

一月八日 己丑 水曜 晴天。40(度)。

授業始執行す。五年より一年迄教場にて生徒にはなしあり。畢而、式場にて校長はなしあり。又、李子もはなす。初日なから生徒欠席少なし。退散す。大坂中島富女暇乞して高橋え行。明朝、帰坂の筈なり。夜九時、泰、寿子、銚子より帰宅す。

一月九日 庚寅 木曜 晴。37(度)。

朝十時より山内豊尹子悔二行。奥様にも御目に懸りて種々御咄し共伺ひ、実に火急なる盲腸炎にて廿七日御発病にて三十日御逝去のよし。実に驚人たり。御霊前参拝して、三光坂富永氏に悔二行。是又火急の病にて脳イツ血のよし。発叔様、藤瀬の細君にも御目にかゝりて、種々御病況も聞。仏前え参りて帰。午下二時也。

*脳イツ血(脳溢血)

一月十日 辛卯 金曜 38(度)。

校外稽古始にて、栄子、晴子、房子、敬子と也。来客、山岡貞代母。朝七時、泰、銚子え出立す。

(受信) つむぎの味噌漬着。

(発信) 小包出す、木津願泉寺え海苔十帖、角田定得え海苔廿帖。

一月十一日 壬辰 土曜 40 (度)。 約束予定 堀田正倫伯三年祭。

李子、佐倉堀田伯え行。一泊す。来客、風俗画報鈴木高重。

(受信) 静岡角田雄五郎、書至、フレンジ二箱と。

(発信) 神戸神代え、小包、書共。愛知角田え。大阪願泉寺。房州重威え。

一月十二日 癸巳 日曜 天気殊麗し。 38 (度)。 約束予定 皇太后宮沼津行啓。

行啓あらせられる。朝九時より車にて新橋二行。十時三十分 皇太后宮新橋御着。沼津御滞在。

よほと御暫く拝謁も出来かたくと、停車場にて御機嫌の処を伺ひ奉りて御発車あらせらる。皇族様、伏見、閑宮様を御はしめ総理大臣より各大臣、公、侯、伯の諸官にて埋られたり。直に帰。李子、銚子より帰る 李子、銚子え行、一泊。

(来客) 新田細君、姉小路伯。

*総理大臣(総理大臣) *大臣(大臣)

一月十三日 甲午 月曜 晴。 38 (度)。

課業例の如し。午下四時、李子帰。訃音、松野類子此暁〇時死去。来客、穂積未亡人、岡崎忠子。

一月十四日 乙未 火曜 晴。 39 (度)。 約束予定 三殿下御稽古始。松野類葬儀、青山祭場。

朝、三殿下成らせられる。御稽古申上る。正子、代々木え行、一泊。

一月十五日 丙申 水曜 晴。 39 (度)。 約束予定 午下一時三十分 愛国婦人会評議員会。

会費三拾銭。

朝より課業例の如し。午下二時迄。二時より愛国婦人会新年会、儀事あり。三時過済て石山基陽氏を訪ふ。暫時にして帰。正子、石山基威氏え一泊。

*儀事(議事)

一月十六日 丁酉 木曜 晴。 39 (度)。

課業例の如し。歌道奨励会、短冊出す。正子、昼時帰。

一月十七日 戊戌 昨三時頃、雨ふり出し、実に細雨如煙。金曜 47 (度)。

校外稽古日五人。午下、三殿下成らせられる。卯都美も稽古する。来客、宮内黙藏。石山基威氏細君、死体分娩す。門馬氏タンドク病にて、長尾様、手塚氏応診をたのみたり。

閑院宮様より基金百円頂戴す。

*卯都美(宇佐美) *タンドク病(丹毒病) *応診(往診) *たのみ(頼み)

一月十八日 己亥 土曜 42(度)。 約束予定 浅草婦人会、午下一時。
課業例の如し。午下四時頃より雨。夜九時頃より牡丹雪ふり出したり。門馬氏、此朝白金三光
坂北里伝染病研究処ニ入院す。

一月十九日 庚子 日曜 晴。 42(度)。

朝、雪一寸計。已而晴。午下より駿ヶ台秋元氏を問ふ。子爵御夫婦と閑談、暫時にして帰。田
村氏を問ふ。長子不在にて、野田操さま病氣にて居間にて談話す。小林眼科医細君も居られて、
談、時を移す。四時帰て、牛込姉小路を問ふて帰。

*駿ヶ台(駿河台)

一月二十日 辛丑 月曜 晴。 43(度)。

課業例の如し。来客、酒井貴美子、津田栄子、弘人。

(受信) 大坂柏原種より半季分月謝、半襟着。返事出す。

一月二十一日 壬寅 火曜 晴。 40(度)。

朝、三殿下成らせられる。閑院宮様より白紋羽二重一疋下さる。本日十九日附にて、弘、靖子、
早苗えの証書認む。

(受信) 房州重たけより鯖の生節着。返書す。依田直子より応奉絵端書着。返書す。清国西沢
清より。台湾小畑照代より。越後大塚春より。

一月二十二日 癸卯 水曜 昨夜三時頃より雨しきり也。豪雨、風もあり。午下五時頃、雨止。

夜月清し。 40(度)。 約束予定 財団法人寄合。原氏も濃州より帰港なく、橋本氏も御断ニ
付、本日の会合ハ中止す。

課業例の如し。午下風雨にて歩行出来かたく、午下休業す。

一月二十三日 甲辰 木曜 晴。 40(度)。

課業例の如し。来客、大坂鳥飼中谷芳三郎氏、久々にて面晤す。叙勲の祝品持参ニ付、染帛紗
と外二画と哥二枚を贈る。正子、津田え行一泊す。

一月二十四日 乙巳 金曜 晴。 40(度)。

校外稽古日。午下、三殿下成らせられる。来客、夜、石山基陽侍従御出にて雑談。先帝陛下の
御香合、御写真挿、西洋盆いたゞく。門人宇佐美敬、予の幼年の学事修養の事を聞たくとてか
たり聞かす。

一月二十五日 丙午 土曜 晴。午下曇。夜二入、雪模様なりしも又月寒く氷の如し。40(度)。
終日揮毫ものす。李子、横浜へ行。

一月二十六日 丁未 日曜 晴。38(度)。
終日揮毫す。夜の寒さ寐に就きかねたり。

一月二十七日 戊申 月曜 晴。40(度)。
築地精養軒。約束予定 愛国婦人、午下一時より後四時半迄、

課業例の如し。午下二時より精養軒に行。朝鮮活動写真を見る。韓国に至るの趣あり。四時過
帰。帰途新田氏を問ふ。挙家喜んで予を迎へて種々馳走して、夕餐を喫して帰。

一月二十八日 己酉 火曜 晴。42(度)。

朝、三殿下成らせられ、御稽古申上る。来客、西之宮夙川たね女、娘を連て入学願に来る。李
子とも種々打合せて帰。石山吉子、大炊辰子御出にて、談話に時を移して夕飯上る。八時頃帰。
報恩講私記、書写始ム。

一月二十九日 庚戌 水曜 晴、曇。夕景雨にて後九時頃空晴たり。40(度)。
課業例の如し。夜、書写す。

一月三十日 辛亥 木曜 晴。40(度)。
約束予定 午後一時より海事協会事務所。
午下一時より海事協会に行。会長毛利安子君、有地氏、其外来集。貞水、水戸流土杉本氏孝子
某誥別之段と乃木將軍之講話にてみな泣たり。後食事開かれて、五時済て帰。夜、書写す。

*水戸流土杉本氏(水戸浪土杉本土)

一月三十一日 壬子 金曜 晴。40(度)。
約束予定 鎌倉茂木向山為より甘鯛着。
校外稽古日。朝より午後、三殿下成らせられる。三時済。

(二月)

二月一日 癸丑 土曜 晴、風。40(度)。
課業例の如し。朝十時頃より、予、正子と同しく代々木大炊家政君を問ふ。先帝陛下の御遺物
御拝領御品々拝見する。実に結構限りなし。昼餐を済して、石山家及師前氏を問ふて、夕飯を
呼れて帰。

二月二日 甲寅 日曜 晴。40 (度)。

朝より墓参して帰。午下、閑院宮に詣して、御息所、姫宮様かたにも拝謁して、閑談時を移す。四時頃退る。黒田清綱君を問ふ。不在。今夕、鎌倉より帰宅のはつと云。今西たねに逢ふ。訃音、関や愛子母糸昨晚死去、四日葬送也。夜、書写す。

*はつ(筈) *関や(閑屋)

二月三日 乙卯 月曜 43 (度)。

課業例の如し。来客、板倉たね子、入学願に来る。夜、書写す。

(発信) 沼津御用邸姉小路え守口一樽出す。鎌倉茂木別荘為え小包物出す。

二月四日 丙辰 火曜 晴。52 (度)。はじめて五十度以上二登る。

朝、三殿下成らせられ御稽古申上る。午下、婦人之友女記者。揮毫ものす。夜、書写す。

二月五日 丁巳 水曜 晴。53 (度)。

課業例の如し。午下、三時頃より津田え行。暫く咄して浅草観音え参詣して帰。来客、堀田和子様。不在にて不逢。夜、書写す。

二月六日 戊午 木曜 雨。夜、大雨。55 (度)。

朝、角田氏を問ひ、玉川堂にて扇面其外を速て、今川小路玉枝氏を問ふ。暫時談話して帰。来客、君島氏 久々咄す、元滝沢鈴子。時、突然神戸より鶴子来る。一泊す。米人某、明治十九年に面会致したる人にて是又久々にて咄す。元中村敬宇氏学校教師にて、今ハ姫路之学校教師のよし也。ベイカル、と申仁也。

(受信) 木津鯛天氏より書至。家宝金剛石の由来申来。岩浪稲子より文至。京都山本より色紙短冊着。

二月七日 己未 金曜 晴。52 (度)。

校外稽古日にて稽古す。午下、三殿下成らせられる。今朝、泰、銚子に行。扇面廿枚揮毫す。鶴子二泊。

(受信) 大坂吉宗榮より浪花漬着。

二月八日 庚申 土曜 晴。50 (度)。

朝十一時頃より赤十字病院に岩浪稲子を問ふ。病全快にて実嬉しく、命ひろひと云へし。此時、梅津照子久々にて面会す。稲子、十日頃鎌倉に転地のよし也。鶴子三泊す。橋本宗治郎氏を呼て、鶴子持参の幅もの件二付相談す。

*命ひろひ(命拾ひ)

二月九日 辛酉 日曜 晴。48 (度)。
朝、橋本宗二郎氏来る。種々の談あり。
(発信) 依田直子え。

二月十日 壬戌 月曜 晴。
課業例の如し。午下三時より暴徒帝都を横行す。六新聞社、破壊の災二罹り、遂二軍隊の出動となる。政友、国民の煽動によりてかゝる大動乱に及びたり。交番破壊されたる六十余と云。電車全部停止す。桂内閣惣辞職。

二月十一日 癸亥 火曜 紀元節。約束予定 弘道会田中氏面会。
来客、弘道会田中久、面会す。紀元節ながら暴徒警戒嚴重なり。来客、津田弘視、孝、精。

二月十二日 甲子 水曜 晴。
課業例の如し。

二月十三日 乙丑 木曜 晴。38 (度)。寒さ殊甚し。
終日揮毫ものす。来客、梶山氏。後継内閣山本権平伯総理大臣と云。

*山本権平伯 (山本権兵衛) *総理大臣 (総理大臣)
二月十四日 丙寅 金曜
校外稽古日。教授す。三殿下成らせられる。

二月十五日 丁卯 土曜 晴。 約束予定 約束あり。
本日、午下五時より上野精養軒にて和慰会之催しにて、予、叙勲祝賀会を開かれ、予、及李子と行。堀田伯幹事にて、万里伯、酒井伯、加茂夫婦、正親町男。不参之方々にて少数ながら、賑々し。幹事伯演舌。予も御挨拶申。三ヒン乾杯あり。食事畢て十時帰。

*三ヒン (シヤンペン)

二月十六日 戊辰 日曜 晴。
朝より予、鶴子と同行にて横浜二行。九時之汽車にて本牧三之溪原氏を問ふ。久々に安子のもてなしにて、鶴子持参の古画を観せる事あり。日曜にて三溪園之遊楽人甚し。予も梅林其外散歩して、暇を告て帰。汽車急行にて、六時家に行。

二月十七日 己巳 月曜 晴。
課業例の如し。来客、橋本町子、実業日本社原氏、井出百合子。

二月十八日 庚午 火曜 夜雨甚し。

朝、三殿下成らせられ、御稽古申上げる。明日の準備にいそかし。

(発信) 有馬芝猛雄え。沖津幸島きく子え。

*沖津(興津) *いそかし(忙し)

二月十九日 辛未 水曜 晴。50(度)。 約束予定 愛四郎七回忌法事執行。

課業昼迄にて、正午より光園寺二行。参拝者追々に来られる。正一時本堂にて法事。読経。家内一同、津田夫婦、鶴子、石山吉子、大炊晨子、新田細君、玉枝代香山、万里伯、姉伯、橋本太吉、宮原六之介、井深氏、横浜原代理、久米代理、焼香二時畢。墓参して帰。一同宅にて二階二客を通し茶菓にて雑談。下座敷にて食事。一同追懷種々の談話にて、夕餐も済、七時退散。風甚し。此夜ハ火の元用心すへき也と云。十一時臥。

中島徳蔵氏病氣二付、其代理大学助教授深作安文氏、本日より倫理講義に来られる。

*光園寺(光円寺)

二月二十日 壬申 木曜

二時頃、神田辺大火。新田氏危険とて、清を見舞二遣したり。皆立退れて其内焼失と云。四時、下部一人帰り来りて、三崎座、東京座を焼始めて、猿楽町電通両側共焼たりと云。中々の大火、驚人計にて、水道橋より人を入れぬと云。又報来、新田氏丸焼にて今川小路鈴木と云鉄砲屋二立逃たりと云。方々かゝり有て見舞もの出す。此夜も種々取揃、新田氏え出す。寿子、石山氏見舞二行。夜、正子、鶴子も見舞二行。

*危険(危険) *鉄砲(鉄砲) *立逃(立退)

二月二十一日 癸酉 金曜 晴。48(度)。

校外稽古日。小早川、大村さまハ梅御殿御危篤にて欠席。三殿下成らせられる。

(発信) 北条跡見え。秋田岡村え。浅草藤浪氏。

二月二十二日 甲戌 土曜 夜、大雨。50(度)。

課業例の如し。午下早々、火事見舞二行。原田照子を問ふ。先々焼残りたり。今津氏、田村、秋元子、戸田氏を問ふて新田氏二行。実には大火にて元の明治四年頃の神田猿楽町わたりの面影をみる。一ツ橋迄の見渡し、するか台、九段の景色、元の校舎より見たる心地す。夕景帰宅す。

*するか台(駿河台)

二月二十三日 乙亥 日曜 50(度)。 約束予定 南葵文庫より面会依頼。

終日揮毫。

二月二十四日 丙子 月曜 晴。あられふる。48(度)。

課業例の如し。来客、清水初子。

*あられ(霰)

二月二十五日 丁丑 火曜 寒甚し。40(度)。訃音、毛利妙光様廿一日御逝去のよし。

朝、三殿下成らせられる。午下早々、高輪梅御殿え参り弔詞申上る。大村子、小早川男、吉川子、西園寺八郎様にも御面会いたし、十七日より御発病にて廿一日御かくれ被遊候よし、実に火急の事、それに修善寺にて御旅行先なるにすへて薬石の功なく候よし也。それより公爵、毛利安子様を伺て暫時にして帰。此時、雪甚しく降り出し牡丹雪と云。

*薬石の功(薬石の効)

二月二十六日 戊寅 水曜 晴。

昨夜来の雪、積る事三、四寸。予、朝より心地あしく胃腸をそこなひたるにや、吐瀉甚し。井深医を招きて診★(言十察)す。寒さに障りたる也と云。午下、長尾氏来られて診★(言十察)す。当分の事と云。此夜おも湯をのむ。

*診★(言十察) (診察) *診★(言十察) (診察)

二月二十七日 己卯 木曜 晴。

けふハ朝よりも心地よし。薬にて下利も止りたれハ先々安心。三度湯煮おも湯のむ。神代鶴子、長滞在ながら事から其要領を得ずして帰。七時半誂別して、正子、房子、角田、新橋迄送る。九時発車也。李子も送る。

*下利(下痢)

二月二十八日 庚辰 金曜 晴。45(度)。

床払する。校外稽古御断する。

(受信) 唯専寺より小包物着。

(発信) 山形酒田某、為替十五円返却す。

(三月)

三月一日 辛巳 土曜 晴。38(度)。

中島氏御病後始而出勤せられ、予も出勤す。寒気堪られずして又臥。

三月二日 壬午 日曜 晴。38(度)。

寒甚。終日臥。

(受信) 神戸鶴子より電報来。

三月三日 癸未 月曜 37(度)。寒中にもこの寒さは珍らし。実に堪かねたり。終日臥。来客、門馬氏、病後はしめて。

三月四日 甲申 火曜 晴。

三殿下成らせられる。御教授申上る。

三月五日 乙酉 水曜 晴。50(度)。

課業例の如し。深作氏倫理講話アリ。今朝の新聞にて沼津の大火承知。沼津八分通り焼失す。有栖川宮御大患を承る。家財諸道具保険付る。

(受信) 跡見法専、福井市より。

(発信) 沼津御用邸え火事見舞出す。

*保険(保険)

三月六日 丙戌 木曜 晴。52(度)。

来客、加茂富子。午下三時頃、湯島天神町、又火アリ。

(発信) 木津鯛天え返書出す。

三月七日 丁亥 金曜 曇。48(度)。

朝、号外、横浜大火五百軒ト云。深川大火。校外生稽古する。午下、三殿下成らせられる。(受信) 沼津姉小路さまより返書至る。

三月八日 戊子 土曜

課業例の如し。来客、原田照子、小山信子、万里小路智子。正子、李子、寿子他出す。夜十時過帰。夜、揮毫ものす。

三月九日 己丑 日曜 晴。

朝より揮毫ものす。来客、姉伯。

三月十日 庚寅 月曜 晴。45(度)。

課業例の如し。来客、時事新報より中村由次郎、婦人世界記者坂水とわ。

三月十一日 辛卯 火曜 晴、風。45(度)。

払曉迄鳴居たる黒犬、見えなくなりて方々さかしたれと見当らず。大ぬに心配す。三殿下成らせられる。午下、時事新報 青柳喬氏 より、書齋の写真撮影にくる。また読売新聞より 寺沢鎮氏 読書之友といふ咄し聞に来る。朝、礪川林町に火アリ。

(発信) 大坂唯専寺え書及伊年画十二枚返却す。

*さかし(捜し)

三月十二日 壬辰 水曜 晴。

課業例の如し。午下二時より浅草観世音に参詣して御膳上る。帰途、津田え寄。子供も病氣大
みによろしく、先々全快也。長谷川智賀子氏問ふ。夕景にて暫時にして帰。

三月十三日 癸巳 木曜

課業例の如し。来客、婦人世界記者坂水とわ。

三月十四日 甲午 金曜 晴。43(度)。

校外稽古日。午下、三殿下成らせられる。来客、井出百合子、読売記者寺沢鎮。

三月十五日 乙未 土曜 晴、風。

朝、墓参して帰。課業例の如し。午下、予、正子、寿子と香風会画をみる。新らしきエタイの
分らぬ画あり。胸悪し。山本、中沢、岡野、三宅氏等の画、尤心地よし。三宅氏の水彩画買約
す。

*香風会(光風会) *エタイ(得休)

三月十六日 丙申 日曜 晴。午下曇。50(度)。

朝より五年生の画を観る。十二時過迄。来客、淑女画報川崎二三子。正子、朝より代々木え行、
一宿。

(受信) 五島慶太より書至。万千代、本月十二日女子分娩、兩人共健全。

三月十七日 丁酉 月曜 朝、雨。午下、晴雨不足。53(度)。

珍ら敷雨にて、盆栽不残庭に出して雨をそぐ。課業例の如し。来客、福田芳子、津田栄子。

(発信) 岡村艶子え。

*晴雨不足(晴雨不定)

三月十八日 戊戌 火曜 彼岸入。雨。約束予定 三殿下御稽古納。

朝、散歩して帰。三殿下成らせられる。絹地画御揮毫相成たり。予、午下、順天堂病院に五島
万千代を問ふ。初産ながら実に早くて御医者間ニ合兼たるよし、極々安産にて子供もよく發育
して丈夫そうに乳もよくのむ。万千代、乳もよく出て時々しほるよし。すへて結構安心く也、
なにの血心もなく。命名春子と云。

(発信) 保田竹子え。

三月十九日 己亥 水曜 晴。
朝、散歩して帰。課業例の如し。本日より絹本製作にかゝる。来客、久米民之介、愛四郎焼香す。暫時親しく咄して帰。

三月二十日 庚子 木曜
課業例の如し。研究生絹本揮毫済。

(発信) 美濃小見山え箱書附して郵送す。

三月二十一日 辛丑 金曜 雨。62(度)。

朝九時より五年生絹本製作にて、午下四時漸済。木村氏より軸物箱書附揮毫、本日渡す。

(受信) 沼津姉典侍さまより、かれ(鯉)一籠着。

*かれ(鯉)

三月二十二日 壬寅 土曜 晴。

生徒、本日にて試験畢る。中島徳蔵氏、全生徒に講演あり。授業納をなす。

三月二十三日 癸卯 日曜

朝、散歩して姉小路を訪て帰。五年生画を見る。

三月二十四日 甲辰 月曜 彼岸結願 晴。夕方より雨になる。48(度)。

朝より画の直し物する。朝、墓参して帰。

三月二十五日 乙巳 火曜 雨。43(度)。

朝より画の直し物す、終日。午下五時半より約の如く、予、正子、泰、寿と井深氏結婚披露二付、出向る。合客は関谷愛、吉村銀治郎夫婦 媒酌人、中村細と嫁の従弟と云。種々閑談面白し。八時比済て帰。嫁殿はとくと云。至極家内らしくよさそうに思ふ。

三月二十六日 丙午 水曜 晴。52(度)。

朝より明日の準備する。来客、長岡愛子、その娘入学二付暫時面会す。正子、石山威氏を問ふ。

(受信) 大隈久子書至。

(発信) 大宮え(ママ) 智栄え。保田竹え。岡村艶子え。

三月二十七日 丁未 木曜 天晴朗。

卒業証書授与式執行。式場其外すへて準備齊ひ、十二時、職員生徒参集。一時、一同式場に列す。校歌一同。二、卒業生証書授与五十二人、研究生八人、優等生及皆勤賞共。校長訓辞、答辞田村源子、四年阿部、別れを惜むの演舌。来賓角田氏演舌あり。生徒一、二、三、四、五年

唱歌にて式全畢。来賓に茶菓、卒業生及教員二御すもし出す。

三月二十八日 戊申 金曜 晴。

朝、散歩して帰。

三月二十九日 己酉 土曜 晴。

朝、散歩して帰。卒業生謝恩会執行。午前十時より裁縫教室にて式場。始、開会之辞、次、余興五、六番にて食堂開け、生徒之歓迎に十分之盛会、畢而又元の席にて余興五番。一同万歳之内に散会す。六時也。

三月三十日 庚戌 日曜 晴。

有約、朝十時より、予、正子と代々木大炊家政君に行。昼餐済て、師前君を訪て種々閑談に時を移し、遂に一泊す。此日始て桜一、二輪咲出たり。

三月三十一日 辛亥 月曜 晴。

午前中に帰宅す。明日、青梅に看梅の催にて弁当の用意週到。巻すし、サンドリツチ、御にしめ等沢山。堀はたの花五、六輪ツ、。

*用意週到(用意周到) *御にしめ(御煮染) *堀はた(堀端)

(四月)

四月一日 壬子 火曜 晴。

朝五時起床。青梅行。仕度して、予、正子、泰、寿子、靖子、早苗、純興、七人連、六時出門、飯田町停車場に行。待事四十分にて、本日より発車時間改正にて九時青梅行と云。今二時間余待へしと云、滑稽限りなし。夫より方向を替て玉川行と定め、電車に乗て行。両岸の花咲出て春心地よし。代々木にて乗替、洪や二行。玉川電車にて玉川着。向側の茶店菊屋二憩ふ、九時前也。茶店のカ々の云、此辺、土筆、嫁菜、盛也、摘草遊はせとて大なる籠二箇を出し案内す。松原わたり土筆つくしとつき出たる、実に居なからにして摘取、大人小供も其悦ひ限りなし。おのれも意外にて勿籠二箇に満々たり。菊屋に帰りて弁当仕(使)ふ。また嫁菜、せり摘て遊ぶ。風もなく実に好天気珍らし。此日の遊ひ意外至極面白し。五時頃立て、帰宅七時也。

*匆(忽) *洪や(洪谷) *カ々(囁) *つき出たる(突き出たる) *大人小供(大人子供)

四月二日 癸丑 水曜

朝、江戸川の花をみる。六、七分と云。実によし。

四月三日 甲寅 木曜 約束予定 蘭亭脩禊会。

朝、江戸川の花をみて観世を訪て帰。花は本日第一とす。

午下二時より、予、李子と横浜茂木氏二行。惣兵衛襲名披露園遊会、戸部別邸にて。本日は男子客のみ。園中実には深林之間に桜花如雲、言へからざる絶景也。種々面白き余興もあり、食堂畢而帰、点灯頃也。

*言へからざる(言へからず)

四月四日 乙卯 金曜

朝八時より学修院卒業式ニ参列す。天皇陛下行幸あらせられる。証書授与式畢而、生徒、御前にて演舌。英語も朝鮮動物之講演、畢而、運動場にて生徒の馬術其外、一時に一切の芸術盛也。畢而御還幸。皆退散。五島盛光子に連れられて代々木新邸二行。昼餐を饗せられる。四時頃迄遊ひて帰。いづれも花の都、満目皆花也。

*学修院(学習院) *運動場(運動場)

四月五日 丙辰 土曜 65(度)。

朝、散歩。本郷辺花見て帰。来客、坪井正子其母と、三好梅子其孫と、別府徳子娘二人、相馬あや其母と、夜、棚橋あや子。午下、塾の子供等八人連て、予、正子と植物園の花をみる。満開もはやちり出したり。花の浄土と云へし。人も多し。

御喪の春手向の花のいそかれて常より早くさくさくらかな

四月六日 丁巳 日曜

朝、散歩して帰。学校寄宿舎新入生の多きに、舎に出張す。終日大困雑百人余と云。来客、田村源子母と妹。

*大困雑(大混雑)

四月七日 戊午 月曜 晴 67(度) 約束予定 始業執行。

朝八時、新入生登校、保証人付添等。新入生式場に集め、校長教育之趣旨を演舌す。次、李子、生徒の心得を演舌す。畢て教場、寄宿舎、縦覧をゆるす。一年生、一、二、三の三種とす。いろは順。入学者二百四十名。未曾有の盛況也。

四月八日 己未 火曜 雨。雨珍らし。木々の母とも春雨の乳をたらしたり。 約束予定 三殿下御稽古始。

朝九時、三殿下成らせられる。午下の課業如例。

(発信) 大阪辻葩のふえ返し出す。大坂今幾多え、弔詞及香料出す。

四月九日 庚申 水曜 雨。雨に雪ふる、伊井の昔し忍はれぬ。
課業例の如し。

(受信) 今西たねより書至。

四月十日 辛酉 木曜 晴。48 (度)。

朝、行楽して帰。課業例の如し。来客、土岐氏妻、観世清久。正子、長尾氏、石威之行。夜九時帰。

(発信) 保田竹え。戊申倶楽部え断出す。

*行楽(行楽)

四月十一日 壬戌 金曜 晴。49 (度)。

校外稽古日はしめ。午下、三殿下成らせられる。

(受信) 長野県有賀喜右衛門より書至。返書。

四月十二日 癸亥 土曜 晴、風甚。

賞状

一金拾五円也

右精勤之賞トシテ贈与候也

大正二年四月十二日

跡見女学校校長

跡見花蹊印

中根民子

島田ため子

右二人也

奉書暨ニツ切に

午下、予、正子、泰夫婦、弘と高田馬場石山氏を訪ふ。津田氏別墅にて、晴やかに庭園広く、桃花未咲残りたるあり。八重桜盛開。主のもてなし、御すもし其外珍味にて、半日の楽しみ也。六時暇を告て帰。風甚し。

*別墅(別墅)

四月十三日 甲子 日曜 晴。 約束予定 日本弘道会、午前十一時、四谷元町五十八松平直亮邸、一円四十銭。

昨夜来風雨にて、朝七時頃より空晴たり。九時出門。松平直亮伯邸ニ於て日本弘道会総会。御広座敷にて祭典。會長徳川達孝伯祭文、及五、六名祭文朗読。一同玉串、参拝済て御園遊会。梅林花なく八重桜満開。御菓子、御そば、薄茶席。一同撮影して、講演等ありて、三時、予ハ先帰。帰途、閑院宮様に詣して、君様、姫宮殿下に拝謁して、閑談時を移す。御庭はもはや新

緑となる。已而退出す。五島春子、宮参り。かちん、帛紗。

四月十四日 乙丑 月曜 晴。

朝、散歩して帰。課業如例。来客、箕浦勝人 妻静子と御礼ニ来る、今西たね 其娘入学願に来る。

四月十五日 丙寅 火曜 雨。

朝、三殿下成らせられる。十一時より図書室にて研究生稽古始る。午下二時迄。来客、桜井常吉。

四月十六日 丁卯 水曜 陰晴不定。

朝、散歩す。課業例の如し。来客、石山吉子、長尾収一氏 病後始而。

四月十七日 戊辰 木曜 晴。

朝、散歩す。課業例の如し。来客、田中寅之輔、井出百合子。

(発信) 保田たけえ。

四月十八日 己巳 金曜 雨、午下晴。

朝、雨。校外生五人、午下、三殿下済せられ、二時半より研究生。

四月十九日 庚午 土曜 晴。 約束予定 新山氏、午下来る。

朝、散歩して玉枝を問ふ。香山にも逢て、木津鯛天より鑑定願候玉の質人造物のよしと云。瑪瑙印と共に持帰る。来客、新山雅楽子。

(発信) 柏原種子、桃井氏、万里智子え返書す。

四月二十日 辛未 日曜

朝、散歩して江戸川の花をみる。八重もはや盛り過たり。姉小路を問て新小川町植木やに行。草花四、五種求て帰。寄宿生一同赤羽根辺え桜草摘に行。校長室棚物買求める、勇やより。

*植木や(植木屋)

四月二十一日 壬申 月曜 晴。 64(度)。

朝、散歩して帰。課業例の如し。夜、散歩して帰。来客、谷もと御礼ニ来る。毛利安子様より御使、林繁介。

四月二十二日 癸酉 火曜 晴。

朝、三殿下成らせられる。十一時より校外生稽古する。午下二時迄。来客、大坂美尾野政次郎、林喜右衛門 悴連て来る。

四月二十三日 甲戌 水曜
朝、散歩して帰。課業例の如し。

四月二十四日 乙亥 木曜 晴。68(度)。

朝、浅草観世音に参詣して、帰途津田氏を問ふ。精、小田原より帰り居り候。午下早々、霞ヶ関離宮に参る。女官御一同、廿日にこゝえ御引移りに相成。御詰所にて姉小路様、園様御はしめ、典侍、内侍さま方に御目もし申上、久々の御はなしいたして、御庭苑え御案内していたゞき、実はその結構いはん方なし。藤、牡丹、つゞし、其外新緑、一品宮様の御好をこらされたる、惜しみて猶惜しまるゝ、感慨に不堪。御庭一週して御洋館すへて拝観す。美の極といふへし。姉小路様、園様の御局にてゆるゝ御咄し申上、六時迄遊ふ。

*一週(一周)

四月二十五日 丙子 金曜 晴。70(度)。

朝四時、散歩して帰。校外生、午下の分も稽古す。来客、跡見玉枝、香山夫婦 小児連れて来る、小池栄御礼ニ来る。裏ヶ関離宮姉小路権典侍さま御はしめ、御詰所え御すもし三重を上る。

(発信) 柏原種子え、かな手本小包にて出す。

*裏ヶ関離宮(霞ヶ関離宮)

四月二十六日 丁丑 土曜 約束予定 上野美術協会、宗達屏風陳列会。

四月二十七日 戊寅 日曜 晴、風。約束予定 梅若舞台にて能楽、有約。松浦伯詩哥会、御断。

横浜原安子、春子来る。留守中不逢。

四月二十八日 己卯 月曜 雨。

課業例の如し。

四月二十九日 庚辰 火曜 約束予定 海事協会、午後一時より。

朝、二殿下成らせられる。季様御風氣のよし也。十一時より校外稽古する。来客、植松照子母、御礼に。遠足、愈五月一日決定す。朝八時、上野停車場集合の事。場所、代々木久米氏、一、二年、三百五拾名。

神津氏、大宮尼。

四月三十日 辛巳 水曜 曇。

朝、散歩して帰。課業例の如し。来客、台湾小畑照世 其母と、中村翁と(衍)結婚して其婿と来

る。

(五月)

五月一日 壬午 木曜 雨。

昨夜より雨。本日は一、二年の遠足会、久米氏にて園遊会の筈、雨にて中止ニ相成。生徒残念限りなく。授業例の如し。余、午前十時頃より久米氏ニ行。本日の断り旁代々木へ行。家内大悦にて昨日よりの準備も齊ひたれと大く残念々々かり候。予てととのひ置たる絹地枮張五枚と銀地二折額面共願ひに応して揮毫す。畢而能楽堂にて、余、仕舞を、久米、融囃子舞卜、子供等の棒しはり狂言等ありて、夕餐を喫して帰。九時也。

五月二日 癸未 金曜 晴。

朝より校外稽古日。午下、二殿下成らせられる。第三回の稽古済て、三時半より代々木大炊氏牡丹をみる。凡廿鉢、皆大りにてよく咲かせたり。家政氏の丹精也。牡丹を賞して御馳走ニ逢て帰。

五月三日 甲申 土曜 雨。

朝、課業ありて、午下二時頃より空も晴て、予、正子、泰、弘、基威と長尾氏鄭躑見ニ行。花盛也。庭中逍遙する。時雨ふりかゝりて雷鳴もはげしく成て、其内すもしなど出て点灯頃ニ成。大雨中、車にて停車場迄行。外み(な) 歩行して電車にて帰。大ぬれして帰。雨未止。

*鄭躑(躑躅)

五月四日 乙酉 月曜 晴。

朝九時より観世清廉三年祭追悼能をみる。津田鎌子、栄子誘引す。久々にて珍らし。山姥、清経、きぬた、花かたみ、正尊、いつも立派に出来たり。独吟十人、仕舞五人、囃子二人、狂言三番。七時畢而帰。朝、津田弘仲、弘視、たか、精来る。

*津田鎌子(津田鎌子) *きぬた(砧) *花かたみ(花筐)

五月五日 丙戌 月曜 晴。天晴朗珍らし。

本日、生徒全部六百人新橋集合、七時之汽車にて江の島へ遠足、朝五時半よりくり出したり。余、所勞にて断る。本日午後三時新橋にて、弘仲氏帰国、弘送る。

五月六日 丁亥 火曜 晴。

二殿下成らせられ御稽古上る。十一時より校外生稽古、午下二時迄。尺八堅物、老松揮毫する。正子、津田え、おはつま上京二付、訪問して帰。

五月七日 戊子 水曜 晴。

課業例の如し。来客、関谷英子。西郷健雄君面会す。此度、原春子と結婚約成る。
(受信) 房州重たけより鯖の生節着。返書出す。

五月八日 己丑 木曜 晴。

午下早々、予、李子と横浜二行。二時十分の汽車にて三の溪原氏え。此度、春子、西郷健雄氏と結婚、愈十三日のよしにて祝もの持参する。この祝典を挙げらるゝも、極々質素を旨として世間ニは吹聴もなく、只親子兄弟のみにて西郷家にて式挙げらるゝよし。其当日の衣装のみ拵えられたるをみる。立派のもの也。この時、高橋捨六氏細君も居られて、共に帰る。停車場にて島田信子、西村良蔵、小山とに逢て一所に帰。

五月九日 庚寅 金曜 晴。

校外宅の稽古日、朝より。午下、三殿下成らせられる。午後二時よりの稽古も済。四時より津田お鑲さま、栄子来られて、帝劇え招待をうけ、はしめてみる。面白く十一時帰。

五月十日 辛卯 土曜 雨、雹、及雷鳴、已而止。
課業例の如し。

五月十一日 壬辰 日曜 晴。 約束予定 午下正三時、日本橋俱樂部。

久米氏より二枚折屏風、額面、其外絹本五枚持来る。午下二時半より日本橋俱樂部にて関谷兵助氏、遠藤とく子との結婚披露会にて前余興、小三落語、細川風谷講談、よし町芸妓の天女の舞、今様乗合船、畢而食堂に付く。盛会也。八時帰。

*よし町芸妓(芳町芸妓)

五月十二日 癸巳 月曜 晴。 約束予定 午下二時、英国マリソン来約。

課業例の如し。英国マリソン、一時半より来る。石山氏通弁。外にもあやしき通弁人来る。予の経歴談をはじめ英国に対する感想、種々密に尋ね、予の写真撮影する。四、五種。四時過迄。夫より学校ニ参観す。夜、散歩して帰。

*経歴(経歴)

五月十三日 甲午 火曜 雨。 約束予定 研究生廿二人。

朝、二殿下成らせられる。十一時より課業例の如く。図書室にて稽古する。

五月十四日 乙未 水曜 晴。 約束予定 午下二時、閑院宮様え参殿之事。

朝、散歩して帰。課業例の如し。午下二時迄。夫より閑院宮様え詣し、御息所え拝謁す。茂宮

様、愈来年節分迄ニ黒田侯え御降嫁御治定ニ相成。右ニ付、夫々御相談事にて折節鍋島成子も参り合せたり。末宮様、御違例にて御養生遊され度よし也。帰途、黒田清暉君え寄。面晤して帰。火、金之内御出のよし約速(束)する。

*黒田清暉(黒田清輝)

五月十五日 丙申 木曜 曇。56(度)。寒し。

朝、散歩して津田氏を問ふて帰。相川氏、絹本三枚、紙地二枚渡す。午下、予、正子と三越へ行、買物して帰。本日、安藤徳之助氏より故さわ子追福之為、金貳百円御寄附相成。御礼状出す。隣小学校えも五拾円寄附相成候て校長お礼に来る。
夜半三時頃、小石川初音町火あり。大雨中、見事也。

五月十六日 丁酉 金曜 雨。 約束予定 大坂柏原種子え手本出す。千葉保田竹子え手本出す。

校外生稽古する。午下、二殿下成らせられる。二時より研究生稽古して三時済。
来客、津田栄子、正子と松屋店二行。

五月十七日 戊戌 土曜 晴。 約束予定 浅草婦人法話会、午下一時より。不参。
朝、散歩して帰。課業例の如し。久米氏よりの屏風其外、仕上する。

五月十八日 己亥 日曜 晴。

朝、散歩して帰。熊谷齋藤氏よりの碑名ニかゝる。表裏共。額面も書上る。
来客、武井祥子其兄と、広部治子母と御礼に、三輪田まさ子久々にて種々閑談して帰。夜も散歩す。

五月十九日 庚子 月曜 晴。

朝、墓参して帰。課業例の如し。来客、弘道会高木八太郎氏、当時の婦人問題ニ付談語する。夜も散歩す。

(受信) 西郷氏夫婦より招待状着。

(発信) 齋藤氏え揮毫もの出す。

五月二十日 辛丑 火曜 雨。

朝、二殿下成らせられる。午下、研究生の稽古済。

五月二十一日 壬寅 水曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。

五月二十二日 癸卯 木曜 晴。

朝、墓参して帰。久米氏より揮毫もの取二来る。終日揮毫ものす。

(受信) 秋田千田氏より小包物着、文も。

五月二十三日 甲辰 金曜 晴。70(度)。

校外稽古日、朝と、午下。二殿下成らせられる。二時後の稽古も済。此朝号外にて、陛下肺炎と御治定。御熱九度二分位。又恐愕おく能はず。

(受信) 土井早苗より晩茶着。

(発信) 安田竹子え請取出す。

五月二十四日 乙巳 土曜 晴。

課業例の如し。西郷氏、結婚披露招待二付、予、李子と横浜二行、午下三時より。新橋四時二分に乗す。横浜二着。島田氏御夫婦待迎えられて車にて本牧西郷氏二着。新郎新婦玄関に迎えられ扣室二通る。此家ハ先代善三郎氏の立られたる馴染の家にて此処え移されたる也と云。来客一、三十人と云。極々親しき人のみと云。媒酌人ハ高橋捨六夫婦。人定而広座敷にて食事。鄭重なる式也。親子の挨拶畢而、高橋氏主人側の挨拶済て、余の祝詞を伸ぶ。一同歡を尽して九時開く。十時の汽車にて、汽車中も大せいにてにきくし。

(発信) 千葉鶴野氏え、たにさく出す。土井氏、柏原えも。

*大せい(大勢) *にきくし(賑々し) *たにさく(短冊)

五月二十五日 丙午 日曜 晴。

朝九時出門。青山離宮参内。陛下御異例様に付、天機奉伺申上る。后、万里小路御局二参る。智子さまも御出にて、暫時御咄して下る。

(受信) 大阪跡見法専より、そら豆着。

(発信) 宗達画集廿円之分、予約申込。審美書院。

五月二十六日 丁未 月曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。

(発信) 跡見法専え返事出す。

五月二十七日 戊申 火曜 雨 終日、夜迄も大雨。約束予定 赤十字総会。皇后陛下臨御、

俄に御やめ二相成たり。

五月二十八日 己酉 水曜 晴。約束予定 午后二時、水交社にて篤志看護婦人会。

課業例の如し。済て午後二時より水交社に会す。式済て庭中にて一同撮影あり。總裁閑院宮妃殿下、東伏見宮妃殿下、伏見宮妃殿下も成らせられる。写真済て還御なる。予等は庭の散歩、サイダ、茶菓子等にて、新旧の知人にも逢て、四時帰。

五月二十九日 庚戌 木曜 晴。 約束予定 午下二時迄ニ、徳川達道伯、有約。

朝、散歩して帰。午下一時半より徳川様に李子と同行。伯御夫婦始而御面晤申上る。此度大すきをこらされたる御土蔵ニ御案内にて、そも御玄関敷石より日本故有の珍ら敷もの、徳川家三百年來のもの、武器を始としてあらゆる骨董、絵画、書籍の類、よくも集取せられたり。今の西洋のもの一点もなきハ珍らし。電汽もガンド提灯にて、次の御間には馬提灯の電汽と云。あらゆる拝見して、御合のものいたゞき、また拝見ニかゝる。御庭園に大樹園と云草庵あり。御庭の大樹木にて造られたるもの。一の字の額ありて、此園に入りたる者は芳名札に何かかゝねハならぬと云。予ハ大樹の根に小笹をかきて一以貫之と云語とをかく。李子ハ一句をかく。此御席ニは菓子器、一の字の形に造りたる焼もの、御庭の土にて焼たるもの、御究りの唐土たんに、此御席のまた奇々妙々、何一つとして世の表本にならぬものなしと云。御主人公の趣味の深さ思ふへし。御晚餐をいたゞきてさりぬ。時九時也。此日ハ松平頼子様の御案内にて御紹介にも相成りたり。

*大すき(大数寄) *こらされたる(凝らされたる) *日本故有(日本固有) *ガンド提灯(龜灯提灯) *馬提灯(馬提灯) *かゝねハならぬ(書ゝねハならぬ) *御究り(御極り) *唐土たんに(蜀黍団) *表本(標本)

五月三十日 辛亥 金曜 雨。

校外稽古日。朝より午後四時迄。此夕餐、泰の西洋食にて一同賑々し。誕生日のくりのへと云。

*くりのへ(繰り延べ)

五月三十一日 壬子 土曜 晴。

朝、散歩して帰。課業例の如し。

(六月)

六月一日 癸丑 日曜

朝、墓参して帰。来客、姉小路公正 益子と、長尾数子、大炊御門こま女。はしめてふらねる(フラネル)着る。

六月二日 甲寅 月曜 晴。

朝、散歩して津田氏を問て帰。課業例の如し。揮毫もの、絹本二枚出来る。

六月三日 乙卯 火曜 晴。夕景より雨ふり出したり。
朝、散歩して牛天神に詣て帰。二殿下成らせらる。火曜日の晴、珍らし。

六月四日 丙辰 水曜 晴。朝雨、后晴。
課業例の如し。

六月五日 丁巳 木曜 雨。終日雨。夜も梅雨の如し。
朝より雨ふり出したり。課業例の如し。揮毫、柳堤山水一葉。

六月六日 戊午 金曜 雨、終日降つゝく。
校外生稽古日。午下、二殿下成らせられる。外にも稽古する。

六月七日 己未 土曜 雨。五月雨の如し。
課業例の如し。此夜、井出百合子（以下、記述ナシ）

六月八日 庚申 日曜 晴。
朝八時より農商務省商品陳列場二行。京都漆器、陶器をみる。嶄新なるもの沢山にて、菓子器、灰皿を買ふ。其外、盛花皿、漆器卓あつらへる。農商之掛員説明せられ、休憩所にて種々右二付ての咄し有。時、南満洲人日本視察使ニも紹介せらる。張翼廷、李樹滋、莫貴恒、梁兆璜。已而帰。揮毫す。靖子、高田石山氏え転地療養ニ預ケル。正子、井深氏付添。夜、散歩す。月よろし。

六月九日 辛酉 月曜 晴。
朝、散歩して帰。課業例の如し。来客、大炊駒女。夜、散歩す。月よし、雲かゝりたり。

六月十日 壬戌 火曜 晴。火曜日には珍ら敷、晴たり。
朝、二殿下成らせられる。其外、校外生授業済て、二時より浅草観音え参詣して帰。夕、正子と散歩して帰。

六月十一日 癸亥 水曜 雨。午後よりふり出したり。
課業例の如し。

六月十二日 甲子 木曜 入梅。晴。甲子にて雨ふらず。
朝、散歩して観世え行て帰。課業例の如し。純地二枚揮毫す。夜来客、棚はし絢子其孫と、井出百合子。

* 棚はし絢子 (棚橋絢子)

六月十三日 乙丑 金曜 朝、小雨さつとふりて晴天となる。

校外稽古日。正子、代々木より帰宅す。大倉喜八郎使江森立夫、絹本持参。

六月十四日 丙寅 土曜 晴。 約束予定 泉会。

散歩して帰。課業例の如し。来客、斎藤仁子、西村政子、松永安衛。午下一時より泉会員大勢にて。二時、近藤氏、水の性質と云講演、面白く理科之功あり。会する者百三十人余、賑々し。三時半済て夕景迄。此時、雨ふり出したり。

六月十五日 丁卯 日曜 雨。朝雨にて、午下晴たり。

朝九時より観世に行。清廉追善会にて終日。六時済て帰。

六月十六日 戊辰 月曜 晴。

朝、散歩して角田氏を問て帰。課業例の如し。

六月十七日 己巳 火曜 晴。

二殿下成らせられる。寄宿舎、校外生の教授も済。

六月十八日 庚午 水曜 晴。

朝七時、津田へ行。お鑿さま、愈十九日出立のよし二付、暇乞二行。餞別もの持参す。暫時にして帰。課業例の如し。午下早々、新小川町川田氏へ行、岡田氏二面会す。済て帰。
(受信) 重威より鯉の佃煮着。

(六月十九日、記載ナシ)

六月二十日 壬申 金曜 晴。

校外稽古日にて、朝より午下三時迄。来客、藤井玉枝。

六月二十一日 癸酉 土曜 晴、夜雨。

朝、散歩して津田を問ふて帰。課業例の如し。余、志賀氏問ふ。みな不在にて直二帰。

六月二十二日 甲戌 日曜 晴。

終日揮毫ものす。来客、藤井玉枝。

六月二十三日 乙亥 月曜 晴。

課業例の如し。夜、散歩して帰。朝九時、津田栄子、岡山より帰京。正子、新橋へ行。浦雪枝子、今朝死去のよし。

(受信) 英ロンドン森律子より端書着。

(発信) 房州重たけえ端書出す。

六月二十四日 丙子 火曜 晴。雨ふり出したり。

朝、二殿下成らせられる。午下、寄宿舎にて校外生稽古する。来客、津田栄子、弘人と。

六月二十五日 丁丑 水曜 地久節。晴。

休業。御喪中二付、謹んで祝詞のみ。朝、散歩して帰。午下早々、河田氏へ行、静坐して、閑院宮に詣し、御息所様と御閑話に時を移し、四時過去る。黒田氏を問ふ。不在中。

六月二十六日 戊寅 木曜 晴。

朝十時頃より、予、正子と三越及白木二行、買物して帰。

六月二十七日 己卯 金曜 晴。

朝より校外生稽古日。午下、二殿下と華宮殿下も猿を御覧遊しに成らせられる。二時還御なる。后又稽古する。宮様ハ今日にて御稽古納めする。

(発信) 姉小路良子さまえ書をよす。土井氏。山形県岡村尚子えも。

六月二十八日 庚辰 土曜 雨。朝雨、後晴。

課業例の如し。午下、大倉氏より七草出来す。来客、津田栄子。

六月二十九日 辛巳 日曜 晴。

終日揮毫ものず。来客、宮原六之介。夜、散歩して帰。

六月三十日 壬午 月曜 晴。

課業例の如し。

(受信) 河合氏より、漬もの一樽着。

(七月)

七月一日 癸未 火曜 晴。

四時起。墓参して帰。校外生稽古する。来客、黒田清輝君、予、肖像御揮毫二付、打合。場所等見分せられて、先七日頃より度々に来ると申されたり。

(発信) 栗原隆三え絹本二枚、扇子三本、本日小包にて出す。

七月二日 甲申 水曜 晴、後小雨。

課業例の如し。昼早々、川田氏え行。三度目、静座して帰。来客、長尾収一、広橋寿子入塾。
(受信) 渡辺祖琉、書至。

七月三日 乙酉 木曜 晴、曇。

朝、教員室にて聞たるに、仁井田多賀子大病にて人事不生と云。大に驚き、早速車を走て大学病院二行。御両親、祖母君も付添て居られ、とても望みなしと申された。たゞ、ゼロセロとのどのタンのみ。実にかゝる才媛得かたき嬢をと残念限りなく、暫く側に付たれとせん方なく帰りぬ。

(発信) 高橋芳之介より野菜、なすひ、唐からし着。

*人事不生(人事不省) *のど(咽) *タン(痰)

七月四日 丙戌 金曜 雨。

校外生稽古する。午下も同しく。閑院宮様より御知らせ戴。信受院様、昨朝御逝去のよし。驚々入候。三日午前。

(受信) 田中芳之介よりの包物。

(発信) 房州重たけえ出す。

七月五日 丁亥 土曜 晴。三条様訃音。信受院様、三日午前七時廿分御逝去。

朝、課業例の如し。午前十時より三条家に行。信受院様御霊に拝し、御所様御一統様に御弔詞申上る。仁井田多か子、今朝四時死去のよし也。本日田中芳之助え書面及香料金式円出す。

七月六日 戊子 日曜

終日、中元物こしらへする。

七月七日 己丑 月曜 晴。約束予定 来客、穂積松子。

課業例の如し。午下一時より大谷家盆栽会に参る。先第一席広間、諸家よりの出品ものもある。紅葉、檜、石榴、実に盛也もの。盆栽鉢、其台、皆古雅なる逸品のみにて、大床、岸礼寒山拾徳の大幅、水盤に蓮花、実に見事也。其外、床脇、もり物、香炉よりすへて位置よろしき事。第二席、三席と拝見して、桜下亭、伏見大将宮御額、此御席すきをこらされたり。次、秋錦亭、又(ママ)面白く、趣向にて主人の趣味思ふへし。御茶いたゞきて庭にをりて、石榴盆栽尤多、だりや、競進会と云。花の種類実に数多也。夫より離宮に参る。霞ヶ関離宮に参る。藤袴典侍さま二御目にかゝり、閑話に時を移し、六時帰宅。御庭の藤花盛ニ開く。有栖川の宮の前兆か。

*寒山拾徳(寒山拾得) *もり物(盛り物) *すき(数寄) *をりて(下りて) *だりや(ダリヤ)

七月八日 庚寅 火曜

朝より校外生教授して、十一時職員生徒一同式場に集会。先、野老山幹事、校長之功積を伸られ、次に宮内氏講演あり。校長の挨拶有て、宮内氏の音頭にて陛下万歳、校長万歳を三唱ツ、にて退会。寄宿舎にて午餐会を受けて、また校長学校の万歳を唱ふ。来客、佐藤尚子。宅にて叙勲記念之晚餐会洋食にて祝ふ。本日、文部省より勲記拝受す。この受書、諸務科へ出す。

*功積(功績) *諸務科(庶務科)

七月九日 辛卯 水曜 晴、小雨。

課業畢る。午下昼半より麻布善福寺ニ於て三条信受院殿葬儀に列す。閑院宮御息所も会葬被遊。二時より読経、焼香、順次ありて三時全畢。夫より有栖川宮に参り奉伺申上て帰。夕、井出百合来、香山梅子、安田輝子 磯子と。

七月十日 壬辰 木曜

朝より閑院宮へ参る。御息所拜謁。暫御咄申上て去る。有栖川宮、午後七時半新橋御着。御本邸に御着。九時薨去発表。十一日より三日間廢朝、五日間宮中喪。

七月十一日 癸巳 金曜 約束予定 校外生休業。

当校、如常授業す。極謹慎して生徒一同式場に集会。大口鯛二氏、故宮様之御事講演アリ。本日朝より方々え中元持せ遣す。昨夜よりの大雨、漸小雨となる。

七月十二日 甲午 土曜 晴。

朝、課業畢る。九時半より有栖川宮御殿ニ参り、御霊前参拝いたし候。そゝろ涙のせきあへぬかなしき。大御息所はる君様に拝謁申上て、御弔詞申上るもかなしき、この御有さま。君様にはきつう御満足あらせられたる。直に去る。

(受信) 美濃遠藤より、うちは(団扇) 十本着。

七月十三日 乙未 日曜 晴。78、80(度)。

朝、墓参して帰。来客、万里伯、富永園子。

七月十四日 丙申 月曜 晴。82(度)。

課業例の如し。来客、鳥尾千世子。

(発信) 小包、酒匂星の氏、美濃遠藤え。

*星の氏(星野氏)

七月十五日 丁酉 火曜 晴。88(度)。

校外生教授する。午下三時より橋本太吉氏、角田氏寄合下され、学校寄宿舎之計算調にて、夕餐後七時退散。来客、伊藤ふき子、金子豊、土岐妻。

七月十六日 戊戌 水曜 晴、雨。

課業畢る。午下早々河田氏二行て帰。夜、散歩して、本郷日の出時計店にて時計一箇買て、雨に逢。此時、宗五氏之細君より傘をかしてくれられたり。此人、馬場辰雄氏の妹と言、実厚意の人、可感也。

来客、台湾総督府通信属伊坂新之助。三十年前、我校ニテ薰陶ヲ受たる高原菊野の子息のよし。対面す。其悦一方ならず。

来客、新田きく子、大坂美尾の忠兵衛。

四回、河田氏。

*美尾の忠兵衛(美尾野)

七月十七日 己亥 木曜

朝六時出門。鳥尾子え行て、有栖川宮御葬送奉送する。此時、小細ふりたりやみたりして、本日にとりては実に結構すゝしくて衆人のためなり。鳥尾氏にて尊き上なき先帝様御金冠拝見す。有かたき事限りなし。すてにして帰。煙の如き雨、御葬列御済にて午後晴。

来客、新田千歳、山根太郎。

*小細(小雨) *やみたり(やみたり) *すゝしく(涼しく)

七月十八日 庚子 金曜 晴。

校外生稽古する。二組共。来客、岡村艶子、久々十一年目の対面にて、秋田より此度帰京二相成、珍らしとて暫時閑談す。津田栄子、子供三人連て来る。山本氏よりの絹本持参す。

(発信) 角田雄五郎え端書出す。

七月十九日 辛丑 土曜 晴。79(度)。

朝、課業畢る。予、正子と墓参して帰。官報ニテ、今上陛下天長節十月三十一日と御治定相成たり。夜、散歩して帰。

七月二十日 壬寅 日曜 晴。板倉勝達子 牛込矢来三、十六日薨去、廿五日葬式。田辺かね子 横浜元町三、十七日死去、廿二日葬式。
土用入、午後五時三十八分。終日揮毫ものす。訃音、板倉勝達子逝去。

七月二十一日 癸卯 月曜 土用二郎、無難天候。晴。83(度)。

課業畢る。揮毫ものす。裏松千代子御出にて御面会す。本日皇太后宮沼津より御還啓あらせられる。

七月二十二日 甲辰 火曜 土用三郎、天候佳。約束予定 廿二日午後四時、元町増徳院にて葬儀執行、田辺かね子。

図書室研究生、本日を以て授業納めをなす。午下二時半より青山御所に参り、皇太后還啓御機嫌奉伺申上。暑中御奉伺申上候。姉小路権典侍御局え参る。御新築奇麗にて御移りたて、未だ取込中にて暫時にして去ル。

七月二十三日 乙巳 水曜 四郎 晴。熱甚。

課業畢、午後早々河田氏に行。夫より石山基陽氏を問ひ、陽さまハ葉山供奉中にてすま子とゆるくはなして帰。姉小路伯を問ふ。已而帰。河田氏行。次水曜三十日二付休み、後二回休み、八月。

(受信) 伊予松山本町老丁目瀬川喜七、書状、金廿五円為替請取、午前八時。

七月二十四日 丙午 木曜 午下四時頃驟雨。已而晴。

朝四時頃、小雨小雷鳴あり。已而晴。本日授業納ヲナス。十時式場に一年生三組、二年、三年二組、四年二組、五年生と誥別の辞をのへて、一同退散す。寄宿生ハ三分の二帰省す。大坂中島一治氏、孫数子の迎ひに来る。廿年賑にて対面す。

正子、早苗、代々木石山へ行。一宿。

*廿年賑(廿年振)

七月二十五日 丁未 金曜 晴。約束予定 板倉勝達子、本日午前九時、府下豊多摩郡野方村大字上高田宝泉寺。

揮毫、秋七草ニかゝる。来客、時事大沢氏 対談す、跡見玉枝。板倉子会葬木村代理す。

七月二十六日 戊申 土曜 85(度)。

昨夜来の雨甚。午前八時頃より晴渡り熱甚。朝より揮毫ものす。午下早々、宮城東御車寄より参内。昨日両陛下葉山より御還行之奉伺、暑中御機嫌奉伺申上て退出。帰途、新田氏ニ寄而帰。

*御還行(御還幸)

七月二十七日 己酉 日曜 晴。88(度)。 約束予定 午下一時始、薫風会。

朝、揮毫ものす。午下早々、予、正子と同しく芝青松寺ニ参る。本日ハ明治天皇御一周忌。御法会勤めらる。導師北野師、僧呂十七人にて読経。会長堀田伴子をはじめ薫風会員一同御焼香済て、本堂にて北野師説教一座あり。畢而帰。

*僧呂(僧侶)

七月二十八日 庚戌 月曜 88(度)。 約束予定 午後一日(時)より海事協会。

朝、揮毫す。午下早々、海事協会ニ行。本日、例の常集会にて、此度新造櫛丸出来、来八月三日船請取のはづ、四日寄附者等に船艦見せる、神戸港にて。直ニ満洲に航海のつもり也。有栖川宮薨去ニ付、御跡総裁宮を東伏見宮依仁殿下に願ふはつに相成居り候と。四時退く。来客、松平鞆子。

*午後一日(午後一時)

七月二十九日 辛亥 火曜 晴。88(度)。 約束予定 愛国婦人会本部にて先帝遥拝式執行、午下三時。

朝より揮毫ものす。午下二時より愛国婦人本部にて先帝遥拝(衍)式参集。玉串を捧て帰。来客、石山吉子、友子迎ひにきたる。

七月三十日 壬子 水曜 明治天皇祭。

早起。式場神殿装飾、後に金屏風二枚をたて、八束台に御霊代、前に神饌物九台、灯明。八時鐘、教員生徒一同着席。先第一に校長玉串を捧ル。教員惣代、生徒五年より四、三、二、一と惣代玉串をさゝく。畢而、中島徳蔵君、先帝の御事蹟を縷々伸られ、九時遥拝式全畢。婦人画報より写真撮影ニ来る。

田中勝子、海輪医学士と結婚整ひたる報あり。

(発信) 伊予瀬川喜七え書を出す。

七月三十一日 癸丑 木曜 73(度)。涼気甚し。

昨夜よりの大雨、午下二時頃より晴たり。来客、下女鶴小児連てはしめて来る。

(発信) 秋田千田氏え画三枚。池田英子え。小田原閑様。秋田田中敬助え小包。

(八月)

八月一日 甲寅 金曜 晴。70(度)。

朝七時より浅草観世音に参詣して、帰途明治博覧会をみる。先帝陛下御即位より年代を分て、順次二年御東行、枢要之處のみ出したる者にて、昔なつかしき。感慨そゝる涙にむせたり。楼上の遺墨類尽く見て帰りぬ。午食後、暑中伺に参る。閑院宮両殿下に拝謁す。昨夜、桃山両陛下の御名代より還御。東伏宮様御息所に拝謁。昨夜、桃山皇太后の御名代より還御にて、三十日、当地御出発の節ハ汽車中九十六度と云暑さのよし、驚々入候。北白川宮え参る。宮様を御はしめ奉而内親王様、富君様、其外御一同様二拝謁する。それより竹田宮え参る。本日は御降誕より御三十日に成らせられて、至而御丈夫様のよし。御用懸西さまニ御目にかゝり、夫より退て、御途中竹田宮ニ拝謁、皇太子殿下にも拝謁す。有りかたき日にて候ものかな。夜、石山すま子来る。はしめて謡二番をうたふ。

*出したる者(出したる物) *東伏宮様(東伏見宮様)

八月二日 乙卯 土曜 晴。70(度)。

朝雨。五時起。李子の連、房州行にて雨中ながら出立す。もし雨茂く候ハ、引返すつもりにて、李子、早苗、井岡、寺田、辰子、寿子、女中そと也。金杉はしけに乗る頃雨中也と云。其内空晴わたりて心地よく、先々無事渡房も出来候事と存候。やかて雨宮送りて帰る。十二時無事着の電報にて安心。

訃音来。清水熊太郎悴貞之助妻幸子、三十一日死去。八月四日池上本門寺にて葬義執行。

*雨茂く(雨繁く) *葬義(葬儀) *はしけ(舳)

八月三日 丙辰 日曜 晴。77(度)。午下より漸七十七度に上ル。

朝より揮毫もの、秋七草落成す。朝、弘、旅行より無事帰宅。正子、暑中見舞に親戚廻りする。来客、姉小路伯、ミスケーツ、井上民子の母鍾子。

(発信) 十五軒え暑中見舞の書をよす。

八月四日 丁巳 月曜 晴。80(度)。

朝、来客、長尾数子。正午より暑中見舞、角田氏より九条様、三条様、大谷様を訪問して帰。

八月五日 戊午 火曜 晴。 80 (度)。

朝、角田栄子来る。朝より揮毫ものす。

八月六日 己未 水曜 第一 晴。 88 (度)。

朝八時より角田氏二行。栄子、煎茶手前にて、盆たて、棚たて等にて煎茶呼れ、是も又珍らしく趣味の有もの也。それより裏松子より、今朝朝貌よろしきよし申来り候二付、裏松子を問ふ。いつもよりは花も小さくと申されたれ(と)も、十鉢余も陳列せられたり。例の掃除も奇麗にて心地よし。つゝ咄し中、昼餐を呼れて帰。

此夜の暑さ、実に暑中の大暑にて寐くるしき位也。作物には至極結構とて、暑さも苦にはならず、有かたし。米作良好と云新聞にて嬉し。

正子、靖子、長尾氏、石山威氏え行、一宿す。

八月七日 庚申 木曜 晴。

朝より揮毫ものす。

(発信) 小田原閑院宮え書をよす。

八月八日 辛酉 金曜 午下一時半、立秋。晴。 85 (度)。

支那大治西沢氏え小包物、瀬川喜七え掛物、小包にて出す。

(発信) 所々え、暑中見舞出す。

八月九日 壬戌 土曜 晴。 87 (度)。

終日揮毫ものす。此朝、泰夫婦と靖子、銚子二行。

(受信) 九条裏方より書至。返書出す。

(発信) 方々え暑中見舞の書をよす。

八月十日 癸亥 日曜 晴。 85 (度)。

朝より揮毫ものにかゝる。

(発信) 弘道社田中久よりの校正済出す。

八月十一日 甲子 月曜 晴。 84 (度)。

朝より揮毫物、梧桐菊落製。此夕、城氏来る。

世間干(旱) 魃の声甚し。天地神明に雨を祈る、本日より。

* 梧桐菊(梧桐蘭菊)

八月十二日 乙丑 火曜 晴。88(度)。

朝より津田栄子、弘人を連れて来る。午下四時帰。夜二入てより炎熱焼か如く、本年の先第一の暑さと覚えたり。世間旱魃、此二、三日に降雨なければ水道水なく、農作物枯死の姿也と云。

(受信) 大坂跡見より雲丹出す(着)。

(発信) 今幾多氏え。大宮池田え返書出す。

八月十三日 丙寅 水曜 第二晴。

来客、岡山県上房郡高梁町西村スミ。揮毫す。

(発信) 小田原閑院宮様え返書出す。

八月十四日 丁卯 木曜 晴。

正子、朝七時より新橋二行。津田栄子と同じく鎌倉に行。来客、大炊晨子、新田純興、千歳と子供。本日ハ風なく、熱度ハ夜八十度位ながら其むし炎熱、とても寐る事もならず。夜十一時頃迄うちはの仕ひつゝけ、先第一の暑さと覚ゆ。井出百合来。

* うちは(団扇) * 仕ひ(使ひ)

八月十五日 戊辰 金曜 晴。

朝五時、父の墓参して帰。揮毫す。泰、朝七時点呼に行。甘軒え端書出す。此夕、雨宮、房子と房州より帰着。

御寺御所より唐からし、茄子着、端書も。もゝ子より端書着。もゝ子え小包菓子出す、端書も。

(受信) 柏原種より馬尾袋着。山形県佐藤権兵衛より白紙着、桃も着。

八月十六日 己巳 土曜 晴。

朝、揮毫す。来客、池村あか子、不逢。午下五時より、予、弘、靖と高田馬場石山氏を問ふ。田園の趣爽快なり。石山のほこりとする風ハ少しもなく、熱烈甚し。夕餐を呼れゆるゝ遊びて、十時、夫婦停車場迄送りくられ、電車中ハすゝし。正子、鎌くらより帰着す。

* 鎌くら(鎌倉)

八月十七日 庚午 日曜 晴。

朝よりむしあつく堪かねたり。此夕、井深氏来り、小石川天然痘発生したり、警察よりせまられて家内一同家婢僕十五人種痘する。夜もこの暑さにてハとても堪られぬ。風は微塵もなく、

あゝあつし〜。

八月十八日 辛未 月曜

朝より小雨降り出し、雨乞の祈祷其しるしと大悦ひたり。午下四時頃より大雨となり、雷鳴も加はりて実に人民は申迄もなく、農作物枯死も蘇生して仰天て感に堪たり。実に喜ふへし。天の感応も斯く有るへしとは有かたき事也。夕景の風涼しくはだへに透りて、鎌くらの海風も房州のすゝしさも何也やと、独此涼をとる。

(受信) 此夜十時頃、神戸今西より水みつ桃着。

* 鎌くら(鎌倉) * 水みつ桃(水蜜桃)

八月十九日 壬申 火曜 朝雨、后晴。

昨日よりの雨ふりたり。予、寿子、靖子と墓参して帰。四季の七花にかゝる。

(発信) 今西氏え、小早川男え、朝鮮久岡え返書す。

八月二十日 癸酉 水曜 第三 晴。 約束予定 河田氏行。

朝より秋花七種落成す。来客、安部基安氏 北野の件二付、手塚氏。

八月二十一日 甲戌 木曜 夕景より雨。

朝より瀑布揮毫す。寿子、新田え行。

(発信) 方々え返書出す。

八月二十二日 乙亥 金曜

朝より細雨降出したり。民、房州行、雨にて止む。午下二時頃、李子より端書着。是非々々一度渡房して松の風のすゝしさを呼吸してはと度々の申来候二付、正子もか様の時にこそと申て、漸決心して渡房思ひたち拵二かゝる。また靖子も連てと思ひに(衍)、俄に靖子呼に遣し、電話かけて浪遣す。此時八時過也。十時帰。房州えも電話かける。

八月二十三日 丙子 土曜 晴。

朝三時起に(ママ)拵にかゝる。五時車にて、余、靖子、民と三人連にて、弘、雨宮、房も送りくられ、霊岸島一番直行。六時三十分ニ保全丸に乗して行。天晴朗にて心地よし。波も静かなり。勝山の風色の面白きに写生する。此時より風波あらくなりたれハ、快然、午前十一時、北条に着。はしけ一艘、桃子はしめ大せい迎ひに來り、伯爵も時夜天氣のあしきに大ゐに心痛の処、予のはしめての船ゆへなるも大元氣にて、皆々悦はれ、李子の別荘に着。松原の中に建築されたる、案外に立派にて驚きたり。是てこそ度々申來られたるなれと大に悦々候。重たけ、治、いく子も迎ひに來に、先々一同無事にて、互に喜ひ安心す。午餐を共にして后、海辺散歩して帰。宅え電報出す。此夜学芸会ありて、この旅客もみな打寄て様々の技芸尽しにて夜十一

時済。

*はしけ(舩) *大せい(大勢) *時夜(昨夜)

八月二十四日 丁丑 日曜 晴。

朝五時起。海岸松原つたひて風景写生す。一時間位にて帰。朝食済て八時頃、重たけ、治、いく子迎ひに来る。予、桃子と車にて館山二行。外みな散歩して行。十二人連也。館山の新築未た半なから二階之眺望、実に此地第一とす。辰巳之方、里見城趾琵琶山を庭に取込、山村田園、西ハ海面、鷹の島、沖の島を位置よく庭に入、運艦六艘景色ニ入て一大画図也。隣家正木貞蔵氏の宅に行。津山金之助、鈴木鶴松二氏来。鷹之島案内。女海士もやとひて興を添るはつの処、風波あらくて船出しかねるよしにて、先中止となる。午餐を重たけ方にて呼れ、四時迄遊ひて、夫よりゆるく浦つたひにて帰る。

*つたひ(伝ひ) *重たけ(重威) *運艦(軍艦) *やとひ(雇ひ) *はつ(笈) *つたひ(伝ひ)

八月二十五日 戊寅 月曜 雨。約束予定 万里伯より茶事の約束、午前十時より。

朝より雨にて、午前十一時、予、桃子、靖子、加茂登美五客也。第一午餐会席、床、容齋芙蓉鯉魚、花、桔梗、女郎花。献立もみなく味よく心地よし。久々の会席にて面白く、御菓子、くす製のなてしこ、濃茶、すへて取合もよく、二時済て、素謡会、中目孝太郎、高橋正男来る。松風 桃子、俊寛 中目、弱法師 高橋、三井寺花と、炎熱赫々たるにかゝはらず、懸命にうたひ上たり。畢而、晚餐を饗せられて帰。
*なてしこ(撫子)

八月二十六日 己卯 火曜 雨。

朝九時頃、雨中を冒して大和田の隠居に松の戸みさ子を問ふ。この三月に東京え帰りたるよしにて残念々々。帰途万里伯を問て帰。終日の雨、夜二入て大風となる。此夜、加茂氏にて学芸会を催さる。子供一同行。予等ハくたびれ気味にて断る。

八月二十七日 庚辰 水曜 雨、風。

昨夜よりの東北の風力強く、おそろしき位也。万里伯も御見舞に御出ニ相成。北町の方はよほと強きよし。丹精の菊も折れふしたるよし也。昼後より西より乾、辰巳之風にて、先々穩に相成。此夜、万里伯、加茂氏一同御出にて、蓄音器の饗応十時頃済て、一同帰られたり。風また強し。

八月二十八日 辛巳 木曜 晴。

天晴朗。昨日の風ハいかに成りたるや。如拭の鏡浦の景色。朝、正木貞蔵氏、重たけ来る。明日出発のよし告る。今日ハ送別のため、万伯、栄、加茂御夫婦を招く。三時頃よりのはつ、六

時御出にて、茶席にて席上揮毫。予ハ船をかく。桃子、干網、登美子ハ撫子を、万伯、鷹の島、加茂氏、富峰、一大合作なり。后、食事洋食。一同面白く清話済て、又蓄音器にて、十時一同帰られる。

鏡ヶ浦にて、

さく夜姫のうつすかゝみの浦なれハ浪の上清くみかきあけたり

*はつ(筈)

八月二十九日 壬午 金曜 晴。極上々晴朗。

朝早く、桃子等浜え。手ぐり漁士の帰るを待て、くるま海老、鯛、きす、かれなど買て帰る。重たけ来る。鏡ヶ浦、俵、焼物、土瓶、茶碗、薄茶器など雅なるもの餞別にもらう。午餐、出立の御祝の御馳走にて、食事十一時済。荷物沢山船に乗せて、一同首尾よく出立。此時の約束にて重たけよりはしけ向ひに来るはつの処、正木氏来りて、この海上ハ兎も角、霊岸島危険にて今日ハとても御乗船は御やめ下さるへく、今日十一時着の船長より御止の方よろしきと申。浪さへ静かならはと(衍)出立とて一同出かけ候処、重たけ、津山、鈴木氏も来りて、危険御止めと申事にて、一同止と治定する。東京霊岸島にはとても着船おほつかなく、鍋島河岸になれはと云々。先々止て予ハ午睡する。送り来りたる中目、高橋氏来りてまた謡ふ。藤戸、唐船、斑女、葵上。晚餐済て、各独吟など有て、中目、高橋、用意の扇子出して画を乞ふ。十時済。

*きす(鱧) *かれ(鰈) *はしけ(艇) *はつ(筈) *斑女(班女)

八月三十日 癸未 土曜 晴。

早起。一同準備して万里さま御一同、重たけ挙家来。本日は天晴風なく至極あつらへ日にて、重たけ、はしけよせ来る。大せいの見送り人にて賑々敷。八時保全丸二乗して帰京す。実に奥上に座する如く、無事霊岸島二着。弘、寿子、房子、雨宮、葉室夫婦を(も)迎に来る。予ハ車にて、外電車にて無事着。家内一同悦甚し。夕餐に桃子も来りて食事す。渡房滞在中の咄しきり也。

広橋寿子、昨日より腸をわるくして残り養生す。民を附置たり。

*はしけ(艇) *大せい(大勢) *奥上(畳上)

八月三十一日 甲申 日曜 天長節。晴。

今上陛下の御はしめの天長節にて、天気もよく、日光の方を向きて拝し、万歳を唱ふ。午下、三井得右衛門氏に鉞子の死を弔ふ。実にいたましき事也。

(九月)

九月一日 乙酉 月曜 雨。夜も雨甚し。

朝より雨にて雷も交る。風なく、二百十日先々無難。午下早々、北白川宮様え参る。宮殿下昨日御昇進之恐悦申上て、東伏見宮此度中将二御昇進あらせられたる恐悦申上て帰。(受信) 閑院宮様より西瓜二箇。房州重威より端書着。

(発信) 房州万伯、小包出す。重たけえ書をよす。

九月二日 丙戌 火曜 雨。

秋元八重子夫人より電話にて、五日午下三時より招かる。来客、跡見玉枝。

九月三日 丁亥 水曜 晴。 約束予定 河田氏行。

朝、来客、高木貞子父九三氏、此度貞女退校の御礼に。午下、河田氏え行。姉小路を問て帰。雨宮、熊谷え行。佐野御老母重病二付見舞のため也。斎藤仁子、石坂氏よりの画二枚持参さめる。

(発信) 信州大宮。小田原閑宮。千葉池田。大坂柏原、小包も。吉宗。長浜安堂。大坂綿田え。
*持参さめる(持参される)

九月四日 戊子 木曜 晴、雨。午下四時頃より細雨ふる。

天晴わたりて天候も定りたると覚ゆ。那知瀑揮毫す。来客、横浜荒井つや子。夕景、泰、銚子より帰宅。北村静よりの使来る。石山面談す。夕景、斎藤房子、雨宮と帰。

(発信) 大宮尼え。
*那知瀑(那智瀑)

九月五日 己丑 金曜 晴。 約束予定 秋元子爵より、午下三時より。

午下四時より秋元様え参り、御夫婦及若奥様と山内子の嬢様にて久々の御談話中、食堂にて晚餐、日本食饗せられる。畢而別間にて子爵の謡を聞く。八時頃帰。

九月六日 庚寅 土曜 晴。 約束予定 七時半より始まり半日間。

授業始にて、職員、生徒も大略集りたり。各々宿題もの集る。来客、石山吉子、大炊晨子、津田栄子。弘の御暇乞御餞別等贈らる。

九月七日 辛卯 日曜 晴、夜雨。

朝九時より、予、正子、房子と観世会二行。御喪明後始て。本日は橋岡の高野物狂珍らしとて、華族方々大せい御出二相成たり。六時帰。

九月八日 壬辰 月曜 雨。

朝七時半より課業例の如し。昼餐送別の洋食にて賑々敷離杯す。午下五時半、弘無事出立す。泰、寿子、正子、桃子、靖子、早苗送る。石山氏も。弘出立の時、雨晴たり。

(発信) 小田原閑様。池田英子え。

九月九日 癸巳 火曜 晴。

本日ハ寄宿舎稽古始にて、十四人授業す。

九月十日 甲午 水曜 晴。 約束予定 本年ハ氷川神社大祭執行。

課業例の如し。御輿来る。宮司騎馬にて神主祝詞もありて門前賑々し。

九月十一日 乙未 木曜 晴。雨甚し。二百二十日の天候、風なくして静に雨ふりて、先々安心々々。

午前十時より、予、正子と代々木大炊氏に行。午後小雨。久々にて石山吉子、師前御夫婦も御出にて種御もてなし、せめて夕飯迄といふて遊び居りしも、雨中々に強く相成て今夜是非々々一泊の事と相成て終日。一泊する。

*種(種々)

九月十二日 丙申 金曜 朝雨、午下晴。

朝六時、車にて帰。本日校外稽古始にて五人。午下、宮様二殿下成らせられる。二時より三人稽古する。

九月十三日 丁酉 土曜 晴。48(度)。 約束予定 乃木大将伯一周年祭。

課業例の如し。来客、姉伯。

九月十四日 戊戌 日曜

終日揮毫ものす。

(受信) 房州万里伯より書至。大宮より。

(発信) 仙台野副とよ。池田英え手本出ス。

九月十五日 己亥 月曜 晴。仲秋。月食午下七時より食し始りて、九時過皆既、二十分頃より月見え出したり。満月ハ十二時、赤色に少し黒ずんだり。 課業例の如し。来客、京都河井滨江、大炊師前君。

九月十六日 庚子 火曜 雨。

朝、二殿下成らせられる。十時より研究生稽古する、昼迄。正子、高田石山氏え行、一泊。(発信) 大坂岡田播陽氏え掛もの箱共郵送す。

九月十七日 辛丑 水曜 晴。

課業例の如し。午下早々、河田氏え行て帰。来客、大炊駒女。三条御使ニて、信受院殿御遺物
提重四季花蒔絵一組。
青山御所姉典侍より御菓子戴く。

九月十八日 壬寅 木曜

課業なき日。万里小路幸子様女中園崎、昨夜死去のよし。回生病院に行、暇乞する。それより
中村元嘉氏を訪て帰。

九月十九日 癸卯 金曜

校外生稽古日。午下、姫宮御休にて、二時よりの稽古する。来客、古屋朝子、木津若間平七。

九月二十日 甲辰 土曜

課業例の如し。午下、増田艶子、永松菅子、朝鮮福田つね来る。

九月二十一日 乙巳 日曜 彼岸の入 細雨。

朝、津田夫婦、小供三人来る。下瀬勝子。午下より浅草本願寺参詣、観世音えも。夫より小松
宮を伺ひ、久々にて頼君様拝謁。閑談時を移し、四時退而帰。

*小供(子供)

九月二十二日 丙午 月曜 細雨。 約束予定 橋岡来る。

課業例の如し。

九月二十三日 丁未 火曜 晴。

課業例の如し。

九月二十四日 戊申 水曜 秋季皇霊祭。 晴朗。

祖先霊祭典執行。朝、早苗を拉して墓参して帰。午下、河田氏え行。それより青山御所に参る。
姉小路良子様ニ御目にかゝりて静談時を移す。此度皇太后宮桃山行啓ニ付御供奉にて、御暇乞
申上る。五時去る。又閑院宮ニ参る。御息所様に拝謁す。廿六(日)、両殿下、外山え赤十字
愛国婦人総会ニ御台臨ニ付、又昨日、茂子女王様、黒田様御親子、御初客にて、御縁組御勅許
相成、かた／＼恐悦申上ル。夕餐戴て帰。

*外山(富山)

九月二十五日 己酉 木曜 晴朗。

朝、時事通信者児島宗徳、小松宮御使森島貞三、田島春子、津田栄子も来る。

*時事通信者(時事通信社)

九月二十六日 庚戌 金曜 晴。

校外稽古日。本日、学校常務員原富太郎君、角田君、今津君の三名也、落成式の相談。来十月十七日寄附者招待の事。七時晚食済て一同帰られる。本日始めて石山新婦信榮来られるはつゝの処、すま子病氣二付中止。

島田信子、本日より画の稽古始める。

(発信) 神津氏。鎌倉佐竹え端書出す。

*はつ(筈)

九月二十七日 辛亥 土曜 雨。 約束予定 万里小路直房七回忌、同八重十七回忌。

朝、課業畢る。午下早々、予、李子和芝明常院に参詣す。二時法事、読経はしまる。三時畢る。座敷にて茶菓。四時頃より万里家二一同会す。新戚の親しきのみにてても大勢にて、夕餐饗せられる。七時全畢而帰。空晴わたりたり。

*明常院(妙定院) *新戚(親戚)

九月二十八日 壬子 日曜 天晴朗。

朝より揮毫ものす。午下。下田英子御礼に来る。来客、夜、万里伯、葉室伯、子供送りながら御出にて、種々御咄しの上、十時過帰られる。

九月二十九日 癸丑 月曜

課業例の如し。橋岡来る。

(受信) 山口県井上憲一より松茸着。

九月三十日 甲寅 火曜 晴。

二殿下成らせられる。十時より研究生稽古、十二時迄。

(受信) 鹿児島加納みほ子より写真及書至。直二返書す。井上憲一え返書。

(十月)

十月一日 乙卯 水曜 晴。はしめて袷を着る。

課業例の如し。午下早々、河田氏え行。静坐して帰。観世え寄。清久改名之祝品持参して、正子是に待受たり。夫より電車で華州園二行。始めてにみる園中も広く、今ハ秋たりやの盛り、薄、秋草など生茂りて桜、梅林、つゝしも沢山、春秋ハ花に遊へる処、眺望もよろしく、座敷も大小ありて、眺望のよき坐敷にて、もち来りし割箇なとつかひて、ゆるく遊ひて帰。点灯

前也。

*たりや(ダリア) *つゝし(躑躅) *割箇(割籠)

十月二日 丙辰 木曜 約束予定 本日、生徒全部遠足会、稲毛海岸。

朝四時起。拵にかゝる。五時頃、空竟東なく細雨降出し又止たり。寄宿生、六時出門。予ハ車にて両国停車場に行。空晴かゝりたり。生徒元氣出、七時半発車す。女教職十二人、男先生、及附添共十一人、六百。九時稲毛着。少憩して皆海二入。貝ひろひする。正午迄よほと遊ぶ。弁当の味もよくて、又山に逍遙して、薄、わりもつこう、野菊、女郎花、外に名もなき紫の花など種々折得て帰。秋の山ふくも一入面白し。手に手に貝をひろふ。面白き干潮にて遠く迄沖に行。二時集鈴を報して集る。二時半、稲毛を立つ。三時五十分特別汽車直行にて、四時半両国着。本日、天氣都合至極にて曇り折々晴ると云遊山日向にて一人の病人障りもなく、無事両国にて皆散す。本日ハ発起人会にて集る者十三人、角田真平君も御出にて、種々協義も有。十七日新築披露会也。

石山信栄子、始而来る、不在中。

*貝ひろひ(貝拾ひ) *わりもつこう(吾亦紅) *山ふく(山腹) *ひろふ(拾ふ) *
遊山日向(遊山日和) *協義(協議)

十月三日 丁巳 金曜 終日大雨。

休業。校外生稽古す。午下、宮殿下も。次、二時の稽古もあり。

十月四日 戊午 土曜 晴。約束予定 観世元滋改名披露会。

午前十時より観世に能見物す。桃子の催しにて堀田和子さまも。元滋の道城(成) 寺すみやかによく出来たり。七時済て帰。

*道城寺(道成寺)

十月五日 己未 日曜 晴。

朝九時より、予、正子、早苗と観世に能をみる。終日面白く、橋岡、谷村の連獅子、装束の目覚る位立派にて、見事に出来たり。感に堪たり。七時過済て帰。

十月六日 庚申 月曜 曇。

課業例の如し。午下二時より下瀬氏二行。桃子と同じく帰。

(発信) 原富太郎君え書をよす。

十月七日 辛酉 火曜 雨、雨晴不定。

朝八時半、宮殿下成らせられる。十時より研究生稽古、十二時済。来客、桜井照代 其父と、浦月子。

(受信) 仙台野副とよより書状、為替、及梨子一箱着。

十月八日 壬戌 水曜 雨、終日降通したり。

朝より午下三時迄授業す。来客、元日下田千代子。

(受信) 京都粟田宮永より盛花生着。

十月九日 癸亥 木曜 晴、一天如拭。

朝、李子代理授業ス。来客、田村源子、母と御礼に。

十月十日 甲子 金曜

朝より校外稽古日。午下、二殿下成らせられる。二時よりも。三時よりも。秋元八重様も。来客、大坂若間氏。

御雅号、恭子女子 花鳳、茂子女子 花璋、季子女子 花塘。

十月十一日 乙丑 土曜 晴。

朝の授業済で、午下一時より宮城万里小路幸子さまも伺ひ、それより青山御所姉小路良子さまを伺ひ、夕飯戴て退出。閑様松井氏を問て帰。本日、桂太郎公薨去のよし、国家のため、なけきてもなほあまりあり。

*なげき(嘆き)

十月十二日 丙寅 日曜 晴。

終日多忙に暮らしたり。来客(以下、記述ナシ)。

十月十三日 丁卯 月曜 晴、陰。

授業例の如し。改築披露準備にいそかし。午下五時より茅町岩崎男を訪ふ。男不在。不逢而帰。

*いそかし(忙し)

十月十四日 戊辰 火曜 雨、夕景より雨降出したり。

朝、宮殿下成らせられる。十時より研究生、十二時迄。来客、田中菊三郎。原富太郎氏より電話にて、岩崎承知、拵込を当校へと云事を托され、午下岩崎家に行て執事に面談す。昔咄しにて、十四日ハ先代之忌日にて読経中との事也。良暫咄して帰。帰途近藤薫氏を訪て帰。

十月十五日 己巳 水曜 雨、昨夜、雨ふりつゝきたり。

授業例の如し。来客、藤田いよ子、久々にて面会す。此日も角田氏来られて、十七日之相談す。

(受信) 台南岩本いさより文弾着、直返書。

(発信) 元田肇氏え書をよす。

*文弾(文旦)

十月十六日 庚午 木曜 晴。四時頃より雨。夜通し雨不止。
休業。校全部準備二忙し。式場装飾よく斉ひたり。三時、全生徒集り、百坪の天幕々下に入れ
たり。此時雨ふり出して、又天幕之模様かへたり。準備なる書画教場に生徒四、五年の合作書
画をかゝけ、教台大花瓶に生花を飾る。一室毎に大生花の飾あり。琴教室二生花数廿瓶かさり
附。茶室二は釜懸て茶の先生受持たり。

(挿入写真)

高山流水情相援

壬子秋 為新美氏 東郷書(花押)

(同裏)

東郷大将より其揮毫を賜はりたるを喜びて
敷島の道ふみ分けし武士のこの水くきの跡を嬉しき

十月十七日 辛未 金曜 神嘗祭 雨。

本校新築落成披露会、午下一時より。朝より、角田真平君、今津覚太郎君来りて、財団法人財
産引渡、其外書類持参にて印形済。本日、早稲田大学二十年祭二付、委員之方々、増田義一、
島田三郎氏、朝の内に来られたり。午下より来賓参集。二時式始る。君か代生徒一同、次校長
挨拶、文部大臣祝辞田所氏代読、次府知事祝文角田氏報告、通信太(大) 臣元田君演舌、女子
師範学校長。

来会者惣数千式百人余、実ニ盛会也。

十月十八日 壬申 土曜 雨、午下止。

朝より跡片附する。午下、角田氏、文部大臣、逋大臣元田肇氏、東京府知事官舎に昨日之御礼
二行て帰。李子、早朝より方々え御礼二行。

(受信) 加藤より、しめし黒子一籠着。

*しめし黒子(占地黒子)

十月十九日 癸酉 日曜 晴。

約束予定 千田勇子より林檎一箱着。

朝、坂谷芳郎男、岡田良平、増田義一え御礼二廻りて帰。午下、観世に能をみて五時帰。朝九
時、信州善光寺大本願大増(僧) 都大宮智栄尼御出にて、久々の御咄し、画の事語る。それよ
り学校参観せられ、生徒の製作書画、其外寄宿舎も委く御覧ニ相成て、十二時御帰りに相成た
り。

*坂谷芳郎男(坂田芳郎男)

十月二十日 甲戌 月曜 晴。

課業例の如し。午下、下瀬氏に行て帰。教職員慰勞会之相談あり。廿二日午下四時よりと定む。教員不残え奉書にて招待状出す。皆出席。松田、小笠原の二人不参。

十月二十一日 乙亥 火曜

二殿下成らせられる。研究生教授する。午下四時半より、善光寺大宮智栄さま御出にて、画の御稽古ありて、六時頃帰寺せらる。

十月二十二日 丙子 水曜 曇。 約束予定 教職員慰勞会、午後四時より。

朝、墓参して帰り、課業例の如し。午下四時より職員来集する。作法室飾附、年齢順にして座敷一はいに満々たり。余興、竹本清宝の壺坂義太夫語る。皆々涙惨然たり。席首宮内氏。酒肴始まる。酒たけなはなる頃、謡其外種々の芸等ありて終りに予の羽衣の切舞ふ。皆々喜々のうちは退散。十時也。

*酒たけなは(酒酣) *うちは(うちに)

(十月二十三日、記載ナシ)

十月二十四日 戊寅 金曜 約束予定 修学旅行五年生。

(コノ日、記事ナシ)

(十月二十五日、二十六日、記載ナシ)

十月二十七日 辛巳 月曜 約束予定 大倉喜八郎喜字祝、帝戯(劇)にて午下四時より。李子代理す。

(コノ日、記事ナシ)

十月二十八日 壬午 火曜

宮様御休を願ひ、研究生授業す。

(発信) 長野神津氏え書、及反物、絹本墨竹之図、小包にて。

十月二十九日 癸未 水曜

岐阜県土岐森本理意智、日比野俊一、北条三野夫。

(発信) 茅町岩崎久弥男え、原富太郎氏え。

(十月三十日、記載ナシ)

十月三十一日 乙酉 金曜 約束予定 外務大臣牧野氏招待、夜九時より。

天長佳節大正第一之大典。天気晴朗、市中之盛未曾有也。今夜八時半より、予、李子と外務省夜会に参集す。本年ハ殊更装飾も盛美を尽して、来賓も毎もより千式百名も多数を招待したりと云。先、玄闕より押合へし合、漸にして御聖影の室、四方に珠簾をかゝけ鏡式菊花の飾付。庭園、紅葉、菊花、柿などに、みなイルミネションにて、まはゆき事限りなし。十時頃舞踊始まり、十二時食堂開けて、予等退散す。車夫四人共、供待居らす、大サワギ。終日車見付出して帰る。時、二時也。

此出かけ、宮城前にて三万の提灯行列、実に見事也。天長節祝日に、

またさらにみ光りそひて天津日のかゝやく御代を仰くけふかな

天長く地久しきと祝ふかなわか大君のあれましゝ日に

*毎もより(いつもより) *まはゆき(目映き) *大サワギ(大騒ぎ) *終日(終に)

(十一月)

十一月一日 丙戌 土曜 晴。

課業例の如し。来客、徳田八重子母、此度帰神ニ付御礼ニ来る。

(発信) 京都弘え五家宝及書を寄す。

十一月二日 丁亥 日曜 晴。 約束予定 村井孝子還暦祝、午下二時帝国ホテルにて。

朝、墓参して帰。午下一時半より村井氏より招待により帝国ホテルに行。来客婦人何々会員六百人と云。先、余興、貞水武士ほまれ講演、竹田人形、鶴亀長唄、幸四郎、梅幸、宗十郎踊、月契粟餅踊、猿之助、亀蔵。畢、食堂開。六時帰。

十一月三日 戊子 月曜 晴。

先帝明治天皇祭、各学校にて休業之分もあり。当校ハあまり休み多きを以、最敬意を表して授業す。来客(記述ナシ)。午下三時より閑院宮に参り、茂子女王御祝物、紋御呂一反、松魚大、献上する。夫より村井氏を訪ふ。芝万里伯二行。夕食を呼れ、此時房子、広橋寿子、河辺やす子と来る。伯案内にて花電車を尋ね、日比谷にて一台見る。公園の菊を見る。実によくも此程集寄したるものかな。観尽しかたし。又電車にて帰。九時也。石山基威、近辺ニ転居する。

(受信) 沖津一碧楼より干鯛着。

*紋御呂(紋御召) *沖津(興津)

十一月四日 己丑 火曜

朝、姫宮成らせられる。研究生授業する。午下、津田之行。六日転居と云。角田貞一之父来る。

桃井可雄氏より祖父可堂先生事蹟之新著着。直ニ礼状出す。

十一月五日 庚寅 水曜 晴。
課業例の如し。来客、野副とよ、授業中不逢。

十一月六日 辛卯 木曜 晴。
朝、浅草観世音え参り文展を観る。実に画之進歩可驚。十二時迄見て帰。帰途、岩崎男を訪而帰。津田氏転居ニ付、子供三人預ル。四時前、高田馬場え連て帰す。

十一月七日 壬辰 金曜 雨。
約束予定 愛国婦人会總會十一月七日ト決定。皇后陛下行啓仰出されたり。

暁方より大雨盆を復すと云ふ降り也。校外生稽古、午下も稽古する。夜、泰帰宅す。午後より休業して明日の準備する。秋田千田氏より林檎着。

*復す(覆す)

十一月八日 癸巳 土曜 晴。
約束予定 本校校友会。

午前十一時参集。続々来会者一同式場集る。運動場に天トを張り、食卓、椅子を置き、第一、校長開会之挨拶、次、李子會計報告、生徒之遊戯、畢而午餐。来賓一同二階之食堂にて御弁当、御茶碗もの、香のもの、菓子、林檎、柿等にて、生徒ハ塾楷上階下に満々たり。実に満員々々。食事畢而、午下娘義太夫寺子屋場、竹本清宝かたる。此時生徒ハ習字教場にて活動写真を見る。休憩、庭上にて御すもし、甘酒にて賑々しく、又余興、手しな、源水のこま等にて。余興畢、四時退散。当日ハ風もなく寒ニ天気晴朗。天祐也。一之障りもなく会はてたり。帰り土産に桃太郎の皿に宝物の菓子を贈る。

*天ト(テント) *楷上階下(階上階下) *手しな(手品) *こま(独楽)

十一月九日 甲午 日曜 曇。
約束予定 奥村五百子除幕式出席、午前十時。

朝九時半より愛国婦人本部に集る。閑院宮総裁殿下、梨本妃、久爾宮妃三殿下成らせられる。十時除幕式畢、小笠原長生子、奥村五百子功勞之演舌ありて、夫より不二見軒に行。地方支部長を始め、会長、理事、評議員、午餐之饗応あり。終て女子職業学校三階にて余興あり。三番程見聞して四時帰。終日雨ならんとして先々ふらてやむ。来客、野副とよ子、面会す。

*久爾宮妃(久邇宮妃) *不二見軒(富士見軒) *ふらて(降らで)

十一月十日 乙未 月曜 晴。
本日より九時始め。課業例の如し。

(発信) 京都市粟田門前宮永東山え為替にて金拾四円也送ル。

十一月十一日 丙申 火曜 晴。 約束予定 午下三時より徳川達道伯え招かる。

朝、姫宮殿下成らせられる。研究生、昼迄にて済。午下三時より徳川達道伯え、予、李子同行。御主人御夫婦、松平頼子様も御待かねにて門前迄御迎ひにて、先々々々にて相変らす。御間毎ニ珍品陳列拝見す。御庭の紅葉秋の錦を染出し目もあやに美しく、先々御座敷にて御八ツ、温き鯛麵、御菓子等にて、それより御庭逍遥す。御掃除万端美しくしき限りなし。此日の夕照、極めて紅葉ニ照り添て一曾目ばゆし。御主人御案内、御庭にて歎賞の声のみ。夕餐を饗せられる。毎もながら御調理の結構さ、面白き御咄し中、食中畢而種々拝見ものにて、ほとんど十時に相成て御暇告て残りをしう帰宅す。

*一曾（一層） *目ばゆし（目映し） *食中（食事） *毎も（いつも）

十一月十二日 丁酉 水曜 晴。 約束予定 本日より天皇陛下、濃参尾大演習行幸あらせられる。

朝十時より課業始る。

十一月十三日 戊戌 木曜 風、大風来る。

終日揮毫ものす。本日午後五時より大東重善氏、角田氏と来られる。文部省学務局長田所氏人撰して当校之主事ニと云。余、李子と共に面語す。至極おだやからしき人にて万事相談す。九時頃帰られる。京都水薬師六角鏡台院の使。

十一月十四日 己亥 金曜 雨と曇。

朝より校外稽古日。堀田伴子さま、今日より御稽古始。午下、宮殿下成らせられる。後の稽古済。

十一月十五日 庚子 土曜 晴、曇。

課業畢る。墓参して帰。李子、一番汽船にて房州二行。為子七周忌法事之為也。

十一月十六日 辛丑 日曜 晴。天晴朗、無風。

朝より閑院宮様え参りて、妃殿下御はしめ姫宮様ニ拝謁して、御昼餐戴て二時頃帰。正子、寿子、本郷二行。

十一月十七日 壬寅 月曜 雨、終日降通したり。

朝より秋田千田勇子、朝鮮奥村とし子来る。学校參觀す。朝鮮木浦福田の娘に逢而帰。本日特別大演習御終了。房州跡見いく子より書、及は書着。

（発信）朝鮮京城大和町吉村八十三氏訃音ニ付、弔詞出す。

*は書（端書）

十一月十八日 癸卯 火曜 朝雨、午下晴。 約束予定 わし田菊枝七周忌二付、芝明常院にて法事勤む。李子施主。

朝、二殿下成らせられる。研究生授業済。大東氏来而、教授振其外を見られたり。予、棚橋氏之貞子死去二付、悔二行て帰。

*わし田菊枝(鷺田菊枝) 明常院(妙定院)

十一月十九日 甲辰 水曜
課業例の如し。

十一月二十日 乙巳 木曜 雨。 約束予定 新田氏招待。

午下二時より、予、桃子、正子、泰、寿、もと威も同行。晚餐を呼べて九時帰。

*もと威(基威)

十一月廿一日 丙午 金曜 雨。 約束予定 午後五時、麴町区有楽町一ノ一生命保険会社協会にて。

松下領三と加茂文子と結婚披露会、午下四時半より生命保険倶楽部に行。盛会也。九時帰。帝国海事協会記念会出席はかき出す、二度目。

*はかき(端書)

十一月廿二日 丁未 土曜 雨。 約束予定 午後二時華族会館ニテ裏松友光と橋本道子ト結婚披露。

朝の課業畢る。午下二時より右裏松披露会二付、華族会館二行。始余興講談二席、長うた二席、畢而食堂開けて盛也。終て親戚方の写真撮影ありて九時帰。

十一月廿三日 戊申 新嘗祭 日曜 晴。

昼早々、北白川宮様を伺ひて富君様に拝謁す。此度、暉久様には島津公の令嬢と近々御結婚被遊候二付、其御祝之印迄二松魚一箱献上する。愈廿七日、北白川宮様にて御盛典挙られ候よしにて、宮様ハ大困雑の趣と仰られたり。暫御咄し申上て帰。河田氏、角田氏、姉小路え寄て帰。

(受信) 大宮智栄師より湯たんぼ、文着。

*大困雑(大混雑)

十一月廿四日 己酉 月曜 晴。

課業例の如し。午下四時より、予、寿子と帝劇二行。森律子帰朝後の初舞台故、一寸見物する。十一時帰。

十一月廿五日 庚戌 火曜 晴。

朝、宮二殿下成らせられる。寄宿舎研究生稽古、昼迄。

(受信) 美の(濃) 山田与十郎より柿着。

十一月廿六日 辛亥 水曜

来客 石山基陽、信栄。課業例の如し。

十一月廿七日 壬子 木曜 晴。

青山御所より御電話にて、今日午下一時迄に参る様にも藤袴典侍より仰せられて、昼早々青山御所に参る。御庭拝観さし許されて、樹下定江様御案内にて、処々方々本年の菊最すぐれたりとして実に栽培のよろしき、めもあやに候。もはや盛過きたれと結構也。所々の御成り所も尽く。上にあかりて、禁苑の四方の気色、実に東京市中とハおもはれず、深山幽谷の処もあり、山あり池あり、鴨のむれ遊ぶなる、実に絵ならさるなく見あくがれたり。紅葉もちり残りて真紅なるあり。其御広き事いくばくか。御茶屋にて休憩しつゝ逍遙しつゝ、三時間ほど拝観いたしたり。漸御局に帰り、御八ツ戴て、四時御暇申上て退る。

*すぐれたり(勝れたり) *めもあやに(目もあやに) *あかり(上り) *気色(景色)

十一月廿八日 癸丑 金曜 晴。

来客、武者小路万子。校外生三組稽古する。

(受信) 樹下定江。跡見いくより。

(発信) 大宮智恵。角田雄五郎返書。

十一月廿九日 甲寅 土曜 晴。 約束予定 本日午後一時より上野精養軒、土方伯八十賀宴。承諾。三円費。

朝の課業畢る。午下一時より上の精養軒に行。実は大勢にて大困雑。予、別席にて土方素山翁、大臣、大将方々と親しく談話之内、三時十分式場に出る。清浦子発起人代理演舌、土方翁挨拶、松方侯祝辞、畢而食堂開かれ、集会者六百人と云。祝賀会ニは稀に見る処也と云。予ハ四時過帰。

美の(濃) 山田与十郎え反もの小包にて出す。茂木松子え手本小包出す。

*上の精養軒(上野精養軒) *大困雑(大混雑) *土方素山翁(土方泰山翁)

十一月三十日 乙卯 日曜 曇。

朝より揮毫ものす、終日。徳川慶喜公大葬儀執行。姉小路千代子廿三年御退(速) 夜二付、仏前にて挙家焼香、読経す。御供饗する。

(発信) 大坂佐竹音次郎氏え絹本三枚、小包にて出す。

*供饗(供養)

(十二月)

十二月一日 丙辰 月曜 雨。 約束予定 姉小路千世子廿三年忌。 午下二時、光円寺にて法事。

課業畢る。 午下二時より光円寺ニ参詣する。 来会者少なく姉小路公正伯、良子代登代、予、李子、正子、寿子、石山すま、基たけ、岡崎忠子、裏松千よ代(衍)。 読経ありて御焼香して帰。
*基たけ(基威)

十二月二日 丁巳 火曜

二殿下成らせられる。 畢而寄宿舎にて教授する。 午下、茂木栄子来る。

十二月三日 戊午 水曜 雨。

課業如例。 本日より試筆稽古ニかゝる。 端書、日本弘道会、時事新報。 色紙、東京日々新聞。 大坂清水方初岡え。 来客、朝鮮平田五三郎。

十二月四日 己未 木曜 約束予定 御茶水女子師範より学校參觀ある。

朝八時半、生徒も集る。 角田氏、島田氏、長尾氏、大東氏来る。 生徒式場に集め、財団法人許可成る報告する。 校長其よしを告る。 角田氏其訳を生徒職員に聞かせる。 此度、主事大東氏紹介する。 大東氏挨拶ありて、島田氏演舌もあり。 改て会計掛を齋藤修を抱える事、是も紹介す。 十時済。

十二月五日 庚申 金曜 晴。 50(度)。

校外生稽古する。 午下、二殿下成らせられる。 后二時より三時過迄。

来客、志賀鉄千代、鳥尾千世、酒巻さと、報知新聞記者座間勝平。

(発信) 大宅氏え。

十二月六日 辛酉 土曜 晴、雨。

朝、課業畢る。 揮毫ものす。

十二月七日 壬戌 日曜 晴。 約束予定 午後一時より帝国海事協会、九段能楽堂ニ於テ。

朝、墓参して帰。 午下一時半より九段能楽堂二行。 帝国海事協会十周年記念日三時より。 小鍛冶宝生、蟬丸 万三郎、鉢木 松本長、三番能見て帰。 八時。 来客、梶田三郎、滝善介之使。

十二月八日 癸亥 月曜 晴。 約束予定 午後五時、九段富士見軒ニ而、土岐茂子、玉井利

七郎養嗣子と結婚披露会。

課業例の如し。午下四時半より三井得右衛門氏を問ふ。それより富士見軒に行。土岐氏夫婦をはしめ新郎新婦之挨拶有て、媒酌人ハ秋月大使御夫婦にて盛会也。食堂、八時畢而、直二東伏見宮様え詣し、殿下の御違例を伺ふ。本日号外にて殿下御重患と云。驚きたり。愈御肺炎と御究りにて、御熱もよほと御下りに相成て御氣先も宜しくと仰せられ候て、先々安心々々。

*肺炎(肺炎)

十二月九日 甲子 火曜 晴。

朝、恭子殿下成らせられる。みき、久々にて御供申上たり。十時より寄宿舎にて稽古する。午下揮毫す。来客、弘道会記者田中久、棚橋總(絢)子。

(発信) 朝鮮北野元峰師え書をよす。

十二月十日 乙丑 水曜 雨。

課業例の如し。早苗、風邪にて帰宅する。

(発信) 群馬県藤田町高橋義次氏えたにさく(短冊)二枚、小包出す。

十二月十一日 丙寅 木曜

終日揮毫ものす。

十二月十二日 丁卯 金曜 雨。

校外稽古日。午下も四時迄。

十二月十三日 戊辰 土曜 晴。

朝の課業畢る。午下三時より觀世え、夜能を見る、予、寿子と同じく。

十二月十四日 己巳 日曜 晴。月如鏡。

朝より不在事して揮毫ものす。来客、中村元嘉氏、下瀬勝子。午下三時半より、予、寿子と帝劇に行。先代萩の芸、森律子 乳母政岡を見て実に感に堪たり。芸術もよく是たけに出来たり。涙千行、又万行。十一時帰。

十二月十五日 庚午 月曜 晴。朝十一時、強震長し。

課業例の如し。来客、大炊駒女。

十二月十六日 辛未 火曜 朝五時頃雨にて、后雪ふり出したり。 約束予定 午下三時より

閑宮え参殿之事。

姫宮殿下成らせられる。寄宿にて研究生稽古、昼迄。午下三時より人車跡押付にて閑院宮え参

る。もはや三、四寸積りたり。途中因(困)難。宮様にては茂子殿下御祝二付、真の御親しき三条資君様と百枝さまと御用掛と予とにて、御大御料理御夕餐にてゆるく御咄しも申上て、八時過帰宅。雪つもる事五寸余。御庭の雪の気色、実何に譬ふへき。奇麗也。三条資君様より三館稻荷大神の額御頼みに相成候。

十二月十七日 壬申 水曜 晴。

朝もまだ雪やまず、午頃より空晴たり。課業例の如し。来客、珍らしく三池灰(炭) 鉦より藤岡きみ子、原田照子。

十二月十八日 癸酉 木曜 晴。

例外なから授業す。午下、揮毫ものす。

十二月十九日 甲戌 金曜 晴。 約束予定 校業(外)生、納稽古する。

朝より松平頼子、大村子、堀田伯、角田、河村、柳、午下二殿下成らせられる。次、宮崎、広沢、鈴木、宇佐美。四時済。

(受信) 鶴沼よりかます着。沼津より蕪包着。遠藤より守口漬二樽着。

十二月二十日 乙亥 土曜 晴。

朝八時より五年生試筆二かゝり、十二時迄、漸出来いたし候。中島先生講演あり。授業納なり。来客、津田栄子、新田千歳、橋岡。泰、朝六時出発す。

(受信) 万里家よりかます包着。

十二月廿一日 丙子 日曜

朝より揮毫ものにて忙しく。午下三時より三条家二行。歳暮御祝義申上ル。資君様より御頼みの神号書て上ル。御不在にて直三井守之介氏へ行。予て御約束之雑子会にて広沢子、毛利男五郎様御夫婦、其外三井理事之方々にて廿人余、梅若万三郎、六郎、観世鉄之丞、囃子方も大せいにて、予ハ雲雀山囃子を舞ふ。実に面白く遊ひたり。十一時帰。

*祝義(祝儀) *雑子会(囃子会) *大せい(大勢)

十二月廿二日 丁丑 月曜 晴。

学校本日にて授業納めをなす。午下二時、予、誥別之挨拶、大東氏演舌、李子も。三時、生徒、一同退散。宮城より御使にて万里小路幸子様御口上にて、皇后陛下より汲泉之御かへし、御下賜金五千疋拝領仰付られる。

十二月廿三日 戊寅 火曜 晴。

終日揮毫ものに忙かし。歳暮贈りもの使出す。

十二月廿四日 己卯 水曜 晴。
歳暮の取やりに忙かし。

十二月廿五日 庚辰 木曜 約束予定 本日午後四時、華族会館にて日本弘道会、徳川達孝伯より。

歳暮之贈もの三十六軒相済。午下三時より三条家へ御見舞二行。御所様御病気のよし、新聞にて重体と聞て参る。然しかく別の御事にもなきよし聞て安心す。夫より華族会館へ行。日本弘道会之晩餐会にて会長より会の發達を伸られたり。八時過帰。

十二月廿六日 辛巳 金曜 晴。

朝より揮毫ものす。来客、浦四三子。清末毛利様え弔詞出す。美尾のえ蕪着札状も。柏原え吹留綿の札状も。

(受信) 広島波多野より干柿着。大坂柏原より吹取綿着。大坂美尾のより蕪漬着。

*美尾の(美尾野) *吹留綿(吹取綿) *美尾の

十二月廿七日 壬午 土曜 晴。

朝より揮毫ものす。来客、長尾数子、大村梅子、酒井君子、茂木松子。

十二月廿八日 癸未 日曜 晴。

終日揮毫ものす。

十二月廿九日 甲申 月曜 晴。

朝より揮毫ものす。本年之絶筆也。午下、徳川達道伯え参る。鉄子様二拝顔して、慶喜様之御事共種々御語り御愁傷限りなく候。遂ニ長座ニ相成。四時、又酒井忠興伯を訪ふ。久々に伯ニ拝顔。暮の御多忙もなく、悦んで種々語り合、七時比帰。

十二月三十日 乙酉 火曜 晴。

本日李子養女房子、とつきの日にて、朝より其拵方すへて、それの黒人女二人来りて髪飾りより衣裳着附する。便利至極也。媒酌人石井健吾御夫婦、朝十時過來られる。午餐祝膳出す。十二時、愈告別して自動車にて直ニ横浜え出發す。李子同行す。此朝、歳暮の墓参する。午下二時頃より、予、弘と神田辺え買物二行て帰。此夕、泰帰。山鳥、雉子廿六羽得もの持帰。

*とつきの日(嫁の日) *黒人(玄人) *得もの(獲物)

十二月卅一日 丙戌 水曜 晴。

朝より座敷之飾附ニいそかし。日暮迄に相済。午前角田真平君御出にて、学校財団法人ニ相成
ニ付、公然諸務引次、泰、大東、石山立合にて行れたり。正午済て帰られる。本年家内一同皆
無事、めて度歳末之祝義も済て、実に祖先之御蔭と一心に難有覚ゆ。

*いそかし(忙し) *めて度(目出度) *祝義(祝儀)

(大正二年会計)

一月七日 三越

友仙めりんす 一反 *友仙めりんす(友禪メリンス)

友仙めりんす 一反 *友仙めりんす(友禪メリンス)

羽二重めりんす 茶無地 一反 *めりんす(メリンス)

〆拾壹円九十銭 廿九日払済

一月九日 下総や

山内子、富永行

十五日 愛国婦人会え、赤城石山え寄

十九日 駿河台秋元、田村、姉小路行

(二十七日) 築地精養軒え

三十日 海事協会え

一月廿一日 絹や

かすり銘仙 一反 *かすり(緋)

緋板〆縮緬 二丈

廿二日 新めりんす 大巾六尺 *めりんす(メリンス)

廿八日 生めりんす 半巾老尺五寸 *めりんす(メリンス)

二月より 下総や車行

二日 閑院宮様え

五日 津田と浅草え

三月より 下総や車代

十二(日) 浅草、津田、長谷川

十八日 順天堂病院え

七月一日 金拾四銭 かな槌 金物や

同五銭 すい取紙 かめや

七月廿日 同壹円八拾銭 ちゝみ模様 絹や新店 *ちゝみ(縮)

廿八日 壹円六拾五銭 白地ゆかた *ゆかた(浴衣)
七月十五日 三越

六拾五銭 裾よけ
六拾五銭 同
六拾五銭 同

津田より 箱三ツ

七月十八日 普門

もち(緋)紗 染もの 一反仕立共

白紹長襦半(袷)あらひ

もち(緋)紗帯 染物

廿二日 つゝれ帯 二筋 くけ(紵)代

下総や

七月三日 大学病院行

五日 三条家行

七日 大谷家、及霞閑離宮え

九日 麻布善福寺会葬、有栖川宮

十日 閑院宮様行

十一日 中元贈り物配達

十二日 有栖川宮え

十六日 河田行

十七日 鳥尾子え

廿二日 青山御所参る

廿三日 河田氏、赤城石山氏行

廿六日 宮城参内

廿七日 芝青松寺え

廿八日 海事協会え

廿九日 愛国婦人会え

十月 \白羽二重 一反 普門え

十月六日 \白紋羽二重 一反 正子え

同 \縞御召 一反 同

十月九日 白紋羽二重 一反 正子え

\縞御召 米え